第 3 章　伊賀市の現状

3-1　　着眼点とまとめ

本章では、伊賀市の人口や学校教育、観光等の伊賀市の現状を整理し、人々の移動に関連する動向を把握します。

表 3-1　伊賀市の現状のまとめ

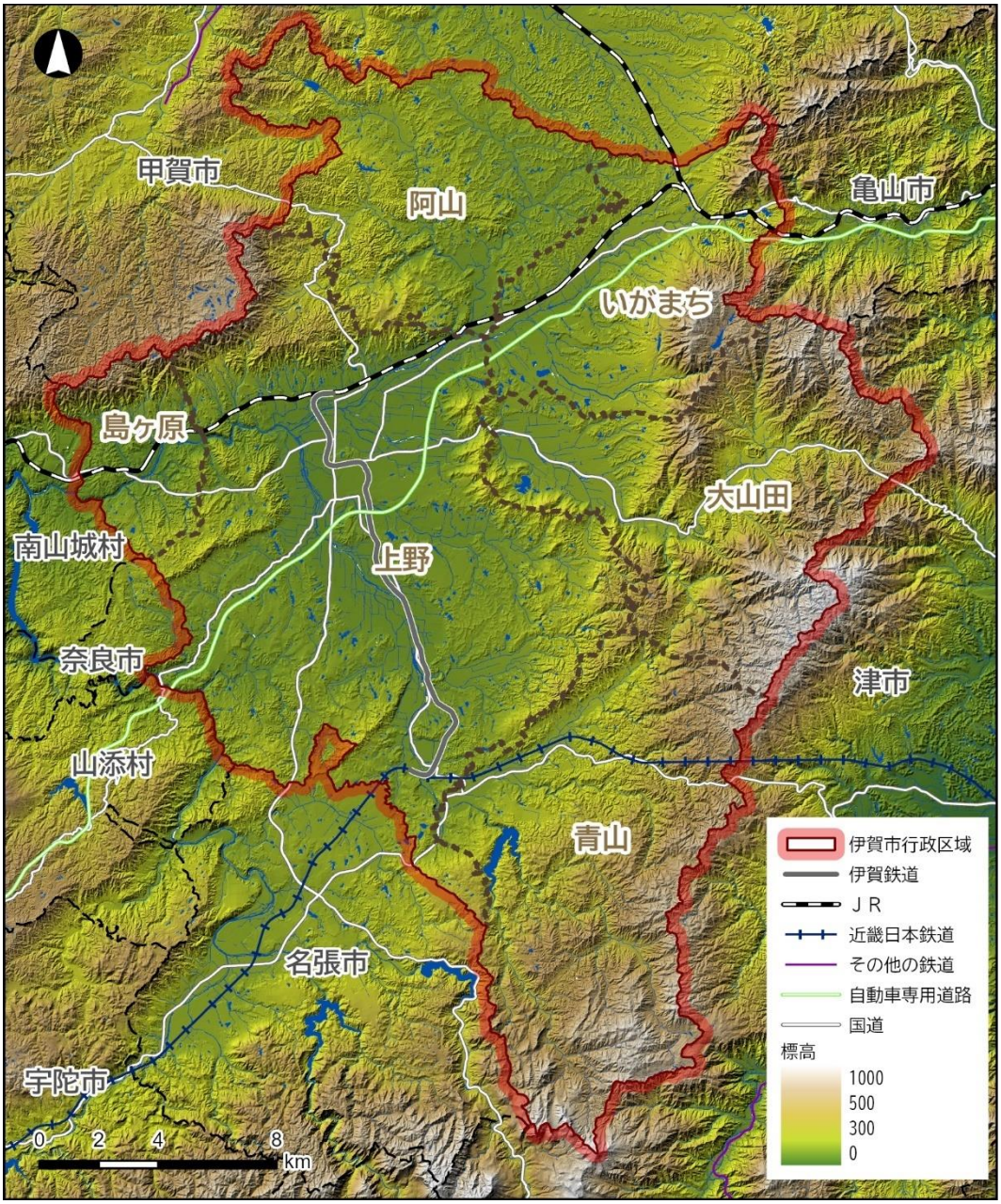
地理的概況	• 滋賀県・京都府・奈良県と接しており、名張市とは地理的に連絡している • 中京大都市圏と近畿大都市圏の中間に位置する • 中心市街地を持つ上野地域、JR 関西本線の駅を持つ島ヶ原地域、いがまち地域、近鉄の駅を持つ青山地域、鉄道駅を持たない阿山地域、大山田地域の６地域からなる多核型の都市である
人口	• 平成 12 年をピークに減少が続き、今後もさらに人口減少は進むことが見込まれている • 少子高齢化傾向が、今後も続く • 上野地域の市街地や住宅団地で高い人口密度だが、低密度の居住地も面的に分布している • 郊外部で高い高齢化率 • 社会減の傾向が続く、特に 10 代後半での転出が顕著 • 死亡数増加に対し、出生数は減少しており、自然減数が拡大傾向 • 昼間人口がわずかに夜間人口を上回る
学校教育	• 小中高等学校で児童・生徒数の減少が続く
施設分布	• 地域の支所は各地域の中心部に立地し、公共施設や子育て支援施設がその周辺に立地 • 市の中心市街地には医療施設、通所リハビリテーション施設、商業施設などが集積
産業動向	• 事業所数、従業者数が減少傾向 • 従業員は上野地域の中心市街地、ゆめが丘地区、名阪国道沿線に分布
通勤・通学流動	• 現在の流動状況は流出人口よりも、流入人口が多い • 経年で見ると、生産年齢人口の減少により、流出人口は減少 • 通勤・通学ともに名張市との流動が多い • 県外との流動は、通勤では奈良県からの流入、通学では大阪府への流出数が多い • 通勤・通学移動手段は、７割以上が自動車を利用
観光動向	• 観光入込客数はコロナ禍の影響により大幅に減少してから回復傾向にはあるが、令和５年時点で、平成 30 年比 20%の減少
自動車交通	• 自動車保有率が高い • 市内の運転免許返納者のほとんどが 65 歳以上の高齢者で、年間約 300 人が返納している • 交通事故件数が減少していない

3-2　地理的概況

伊賀市は、三重県の北西部に位置しており、北は滋賀県、西は京都府、奈良県と接し、中京大都市圏と近畿大都市圏の中間に位置しています。

北東部を山脈、北西部を台地、南東部を山地、南西部を高原に囲まれた盆地となっています。市内は低地・台地は少なく、丘陵地が多くなっていますが、名張市とは峠を越えることなく繋がっています。なお、水系は大阪湾に流れ込む淀川の源流域であり、近畿圏域の水源地となっています。

また、伊賀市は、中心市街地を持つ上野地域、JR 関西本線の駅を持つ島ヶ原地域、いがまち地域、近畿鉄道の駅を持つ青山地域、鉄道駅を持たない阿山地域、大山田地域の６地域からなる多核型の都市です。



資料：基盤地図情報　数値標高モデル

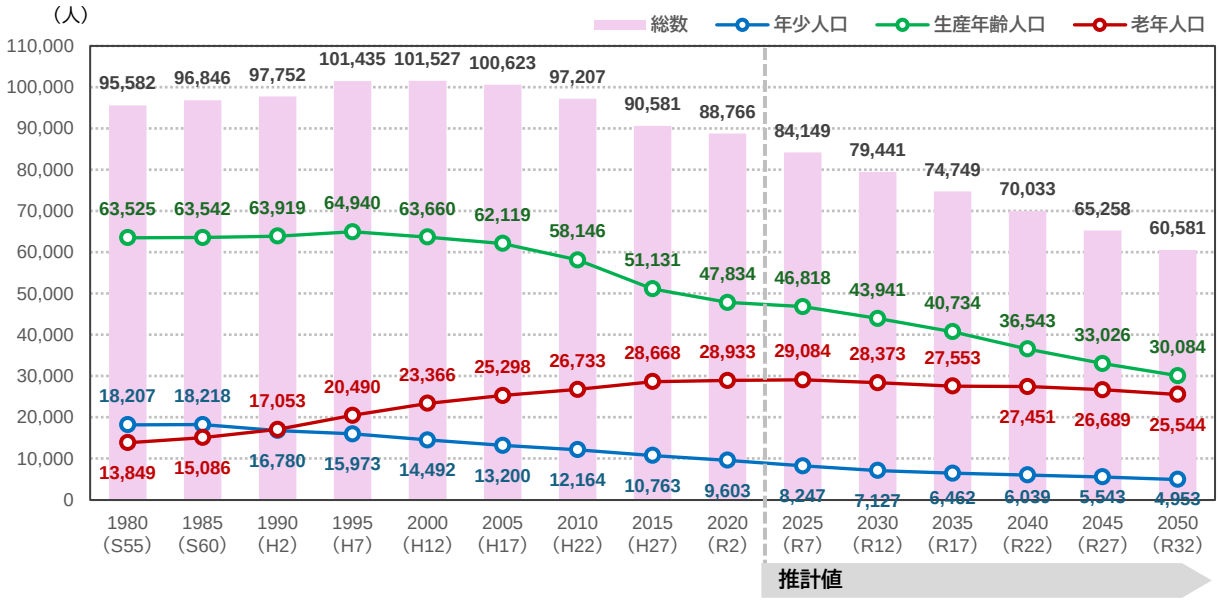
図 3-1　伊賀市の標高

3-3　人口

(1) 人口の推移

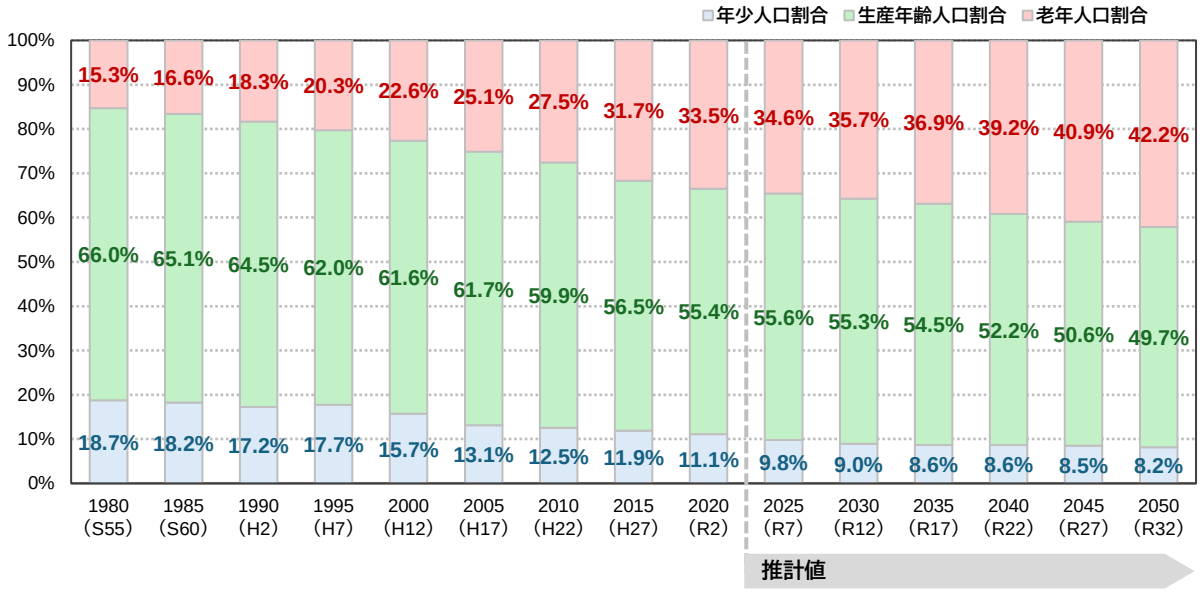
伊賀市の人口は平成 12 年の 101,527 人をピークに減少し、令和２年には 88,766 と、平成 12 年と比較して、12.6%減少しています。今後もさらに減少が進み、令和 12 年までに８万人を下回ることが見込まれています。

３区分別の人口は、年少人口、生産年齢人口は減少を続け、老年人口についても、令和７年をピークに減少に転じると推計されています。また、高齢化率は令和２年時点で、33.5%となっており、令和 27 年には 40%を超えると推計されています。



資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口」

図 3-2　人口の推移



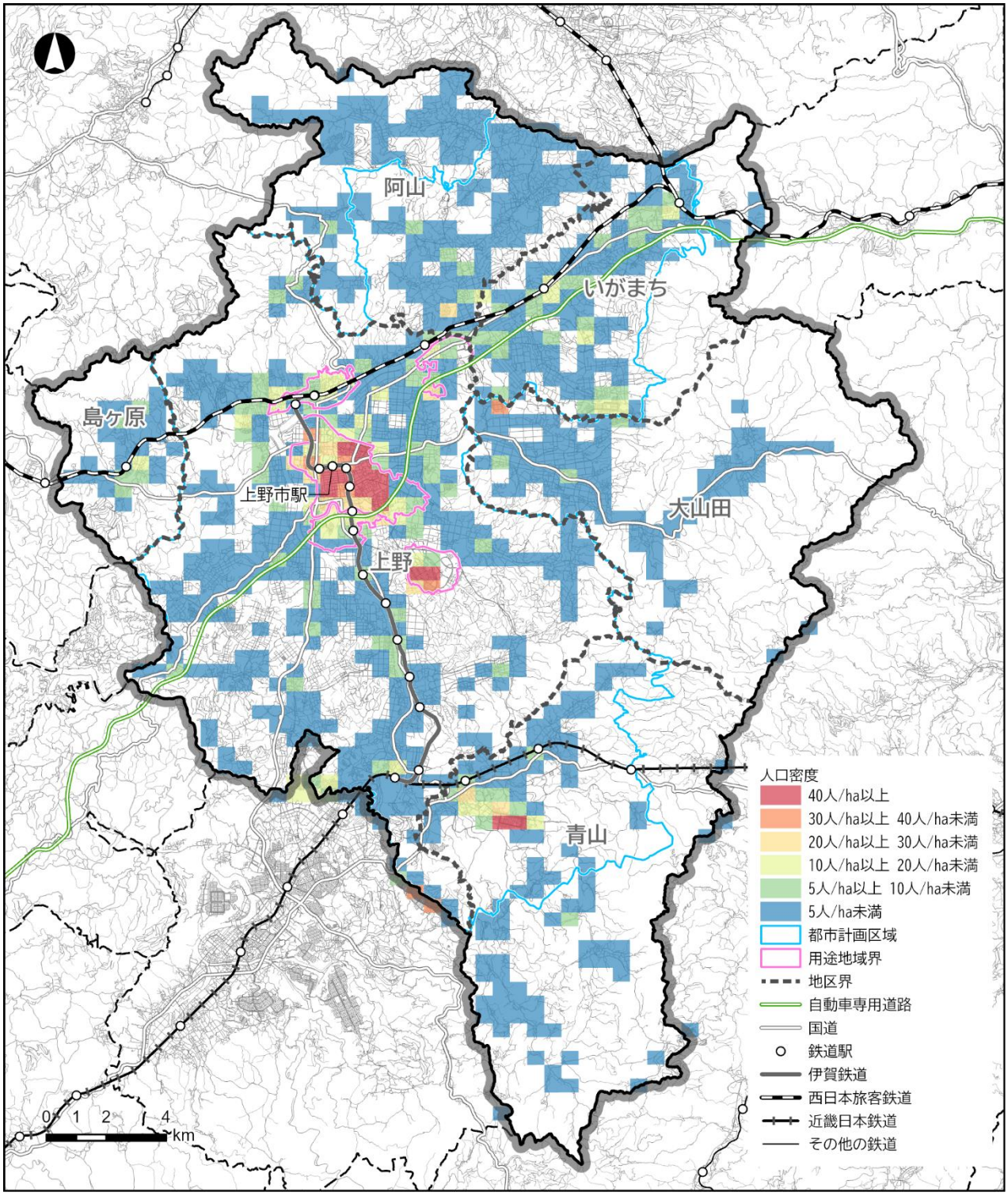
※不詳を除く

資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来人口」

図 3-3　３区分別人口割合の推移

(2) 人口分布

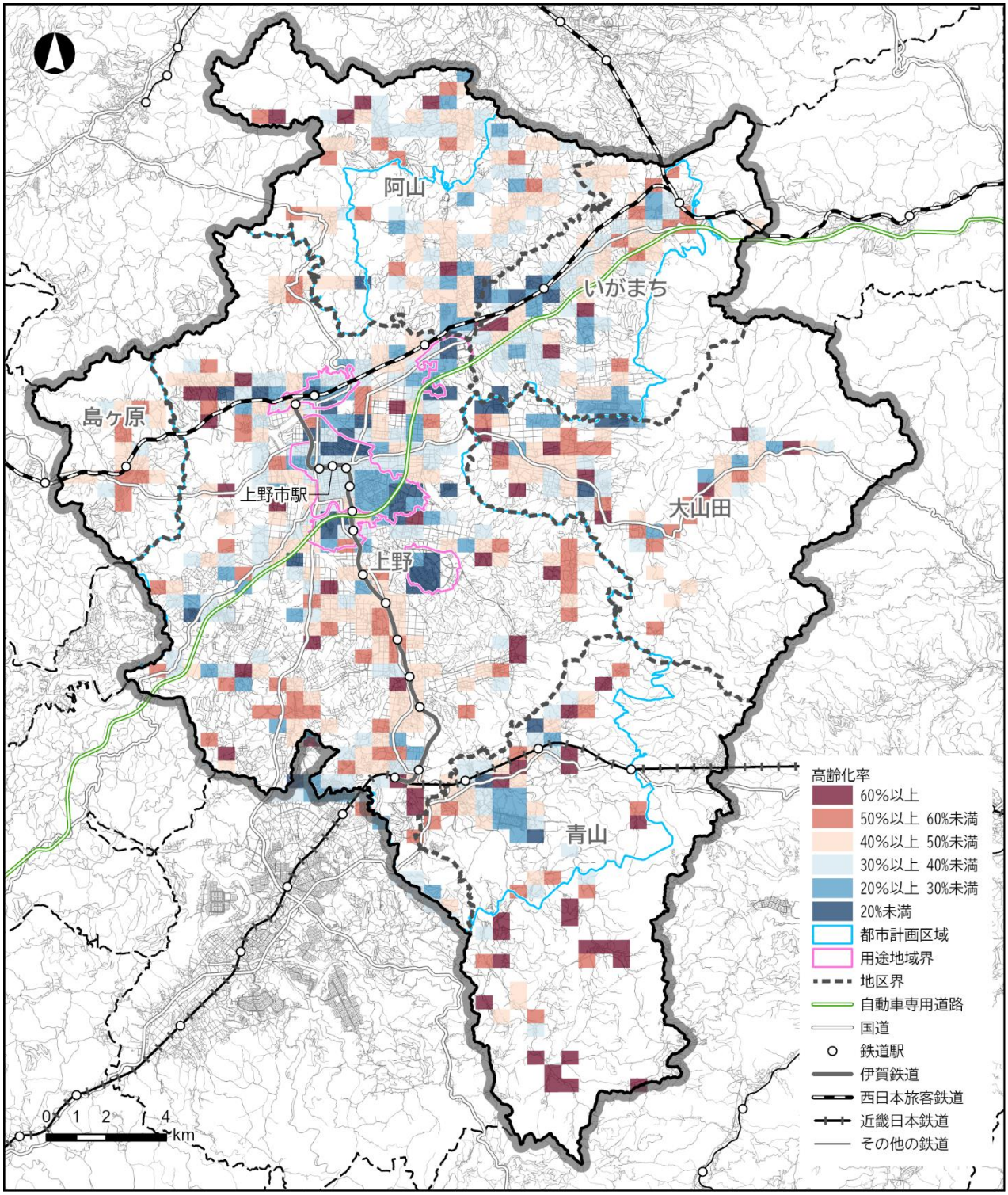
人口密度は市中心部の上野市駅周辺で高いほか、ゆめが丘や青山地域の住宅団地で高くなっています。その他の地域には、10 人/ha 未満の地域が面的に広く分布しています。



資料：令和２年国勢調査

図 3-4　人口密度分布（令和２年・500mメッシュ）

高齢化率は市街地では概ね 40%未満ですが、市の郊外部では 60%以上の地域もみられます。



資料：令和２年国勢調査

図 3-5　高齢化率分布（令和２年・500mメッシュ）

(3) 地域別人口

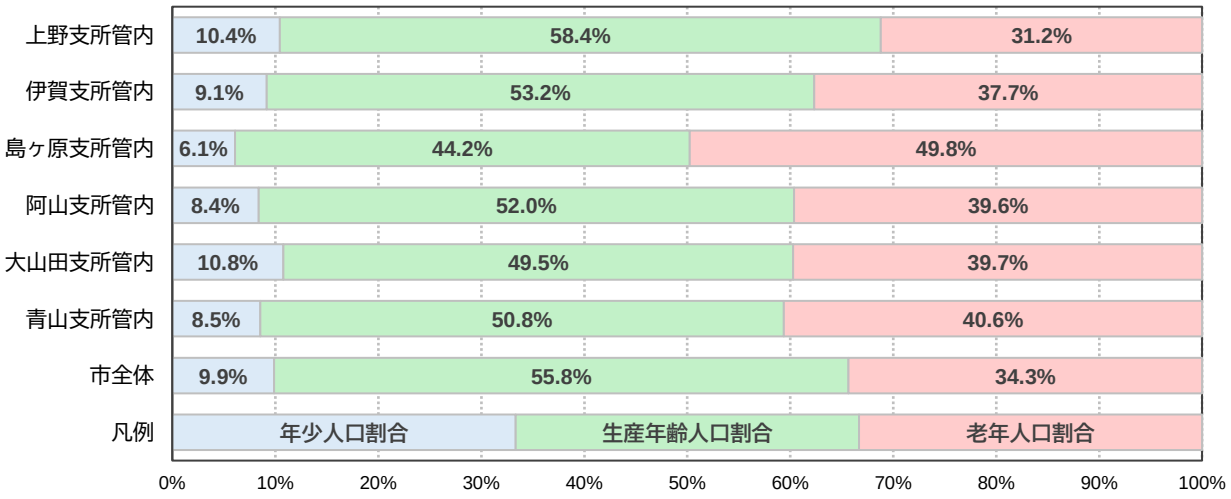
住民基本台帳における地域別の人口は、上野支所が約 53,671 人で全体の 64%を占めます。最も少ない島ヶ原支所では 1,831 人となっています。

表 3-2　地域別・年齢３区分別人口

	総人口（人）	年少人口（人）	生産年齢人口（人）	老年人口（人）	世帯数（世帯）
上野支所	53,671	5,591	31,335	16,745	26,782
伊賀支所	8,849	809	4,705	3,335	4,183
島ヶ原支所	1,831	111	809	911	806
阿山支所	6,110	511	3,177	2,422	2,700
大山田支所	4,628	498	2,292	1,838	2,042
青山支所	8,523	726	4,333	3,464	4,071
計	83,612	8,246	46,651	28,715	40,584

（令和 7 年 9 月末時点）

資料：住民基本台帳



（令和 7 年 9 月末時点）

資料：住民基本台帳

図 3-6　年齢３区分別の地域別人口の割合

伊賀市は、平成 16 年 11 月 1 日に 6 市町村が合併し誕生しましたが、合併前の旧市町村となる 6 地域（上野地域・いがまち地域・島ヶ原地域・阿山地域・大山田地域・青山地域）は、以下のとおりとなっています。人口が多い上野地域は、伊賀市の中心部に位置しており、他地域と比較すると、幹線道路や鉄道が多く通っており、伊賀鉄道は、上野地域内で完結しています。

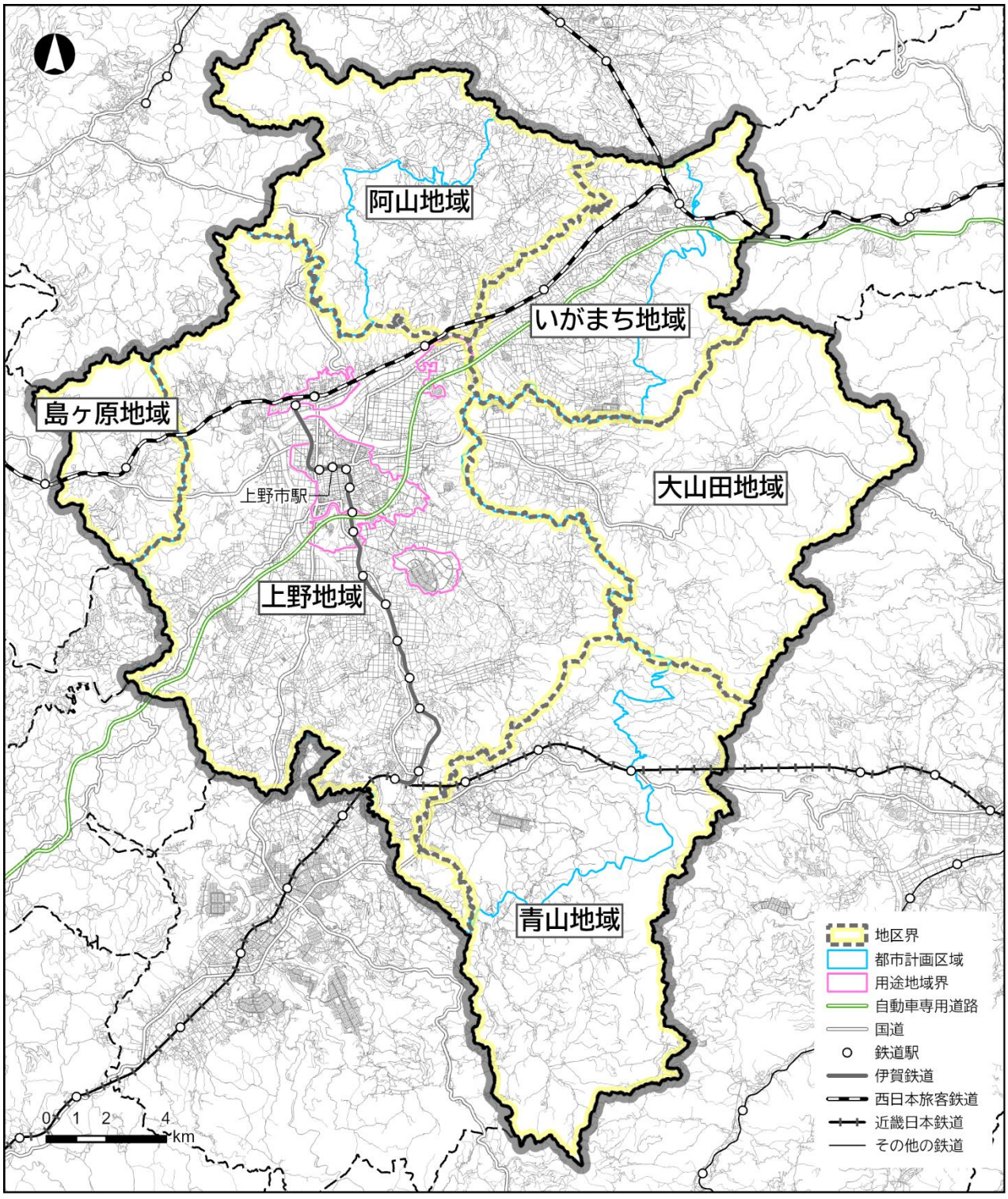
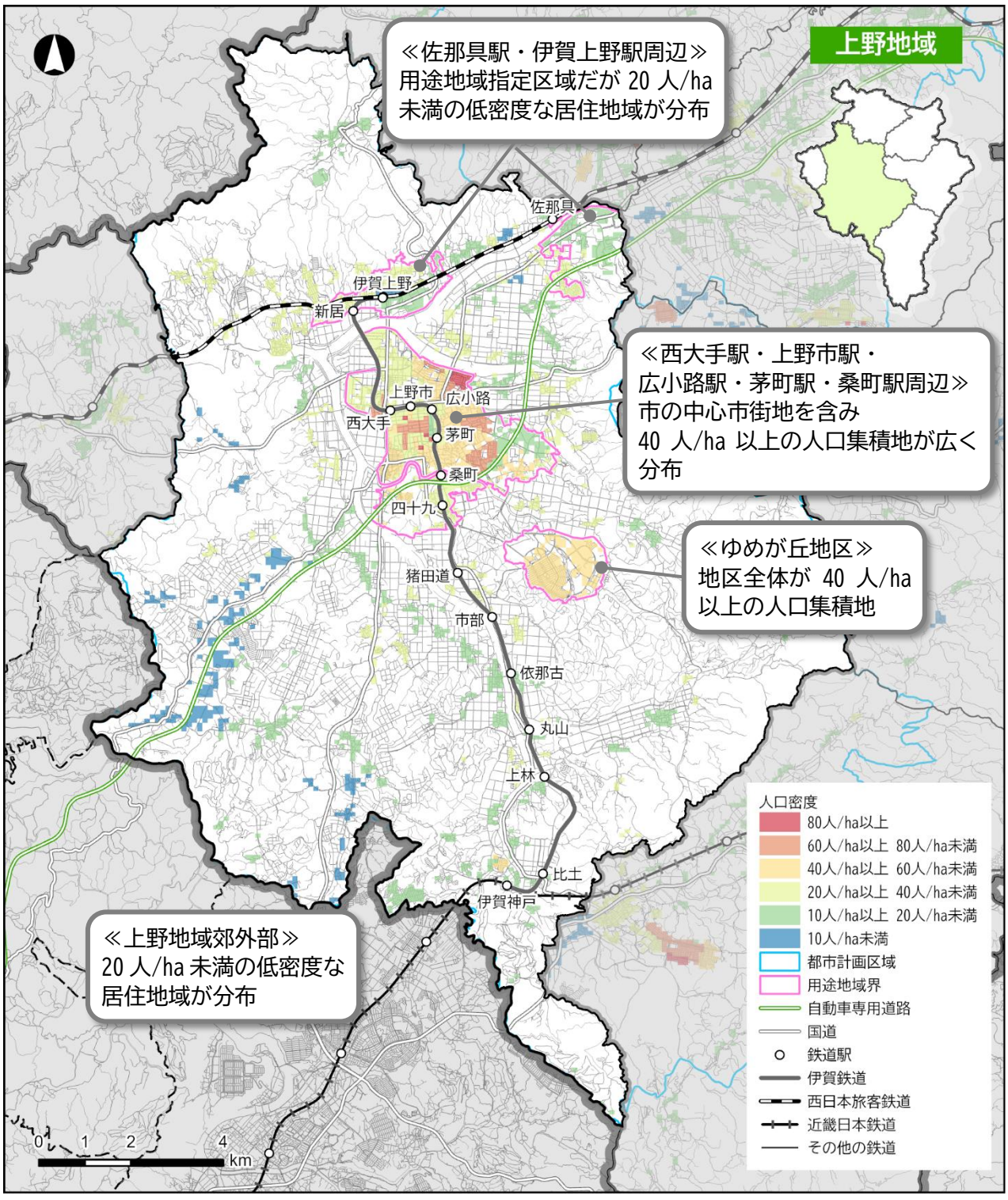
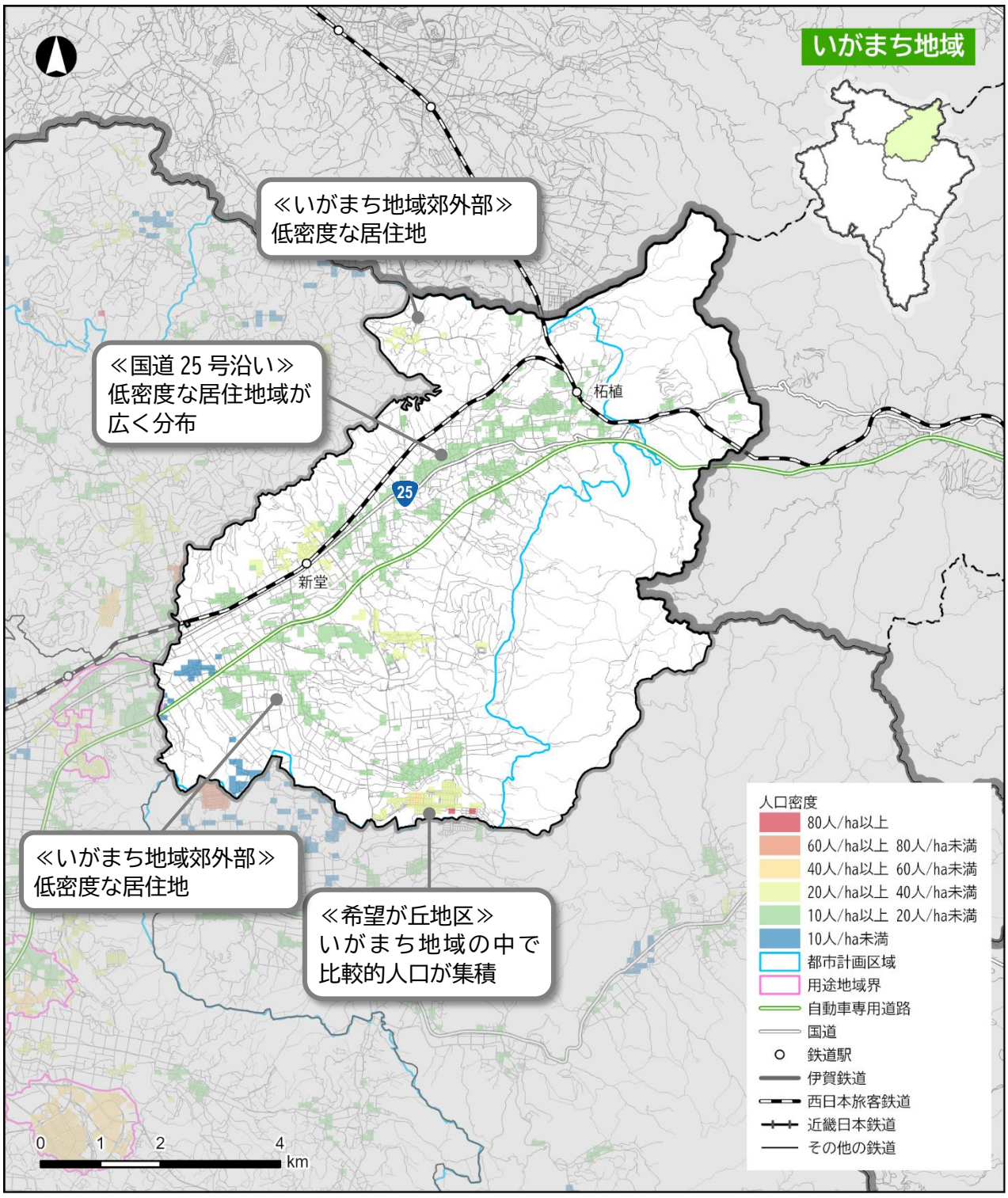


図 3-7　地域区分



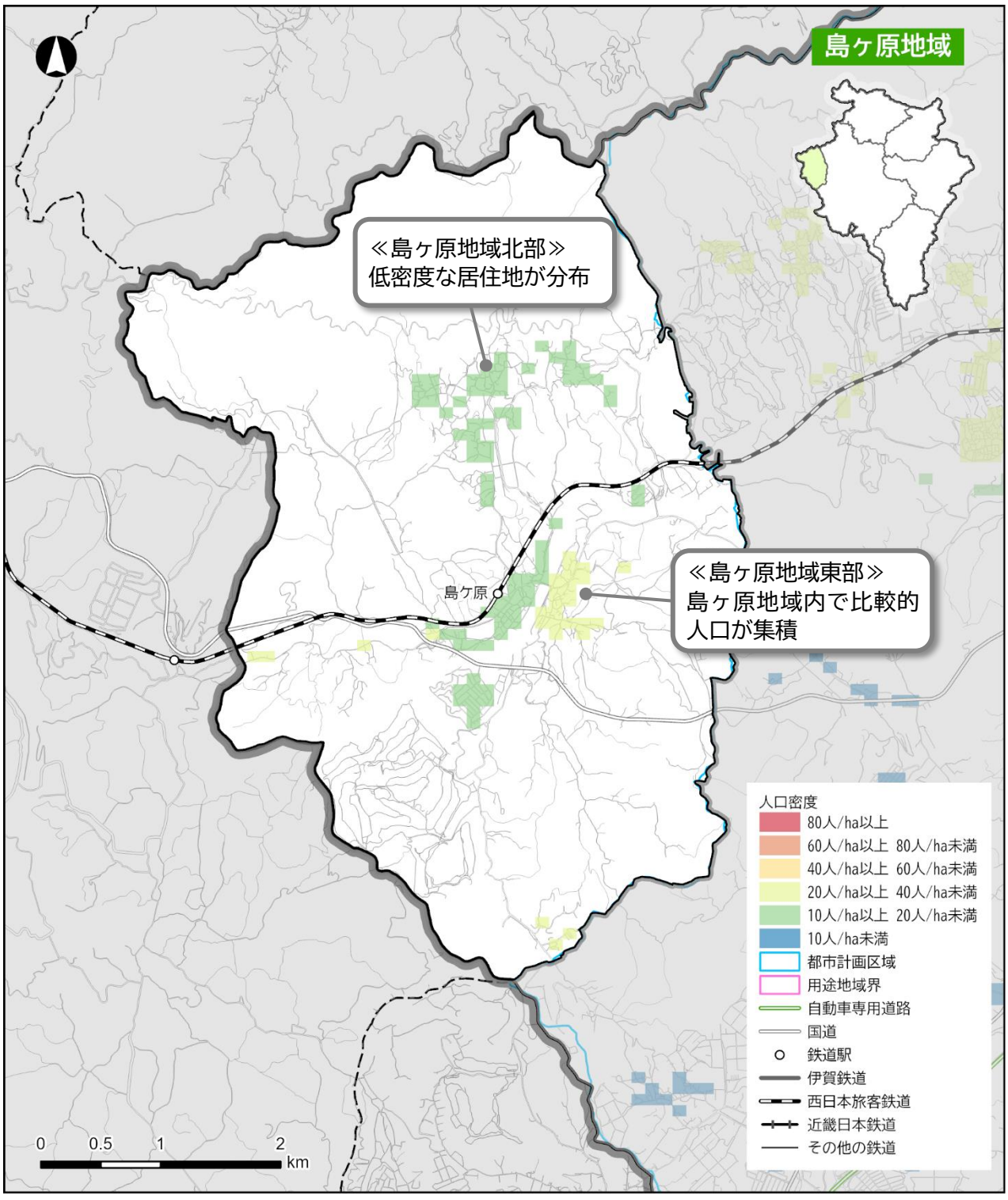
資料：令和２年国勢調査　国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」を用いて作成

図 3-8　人口密度分布（令和２年・100m メッシュ・上野地域）



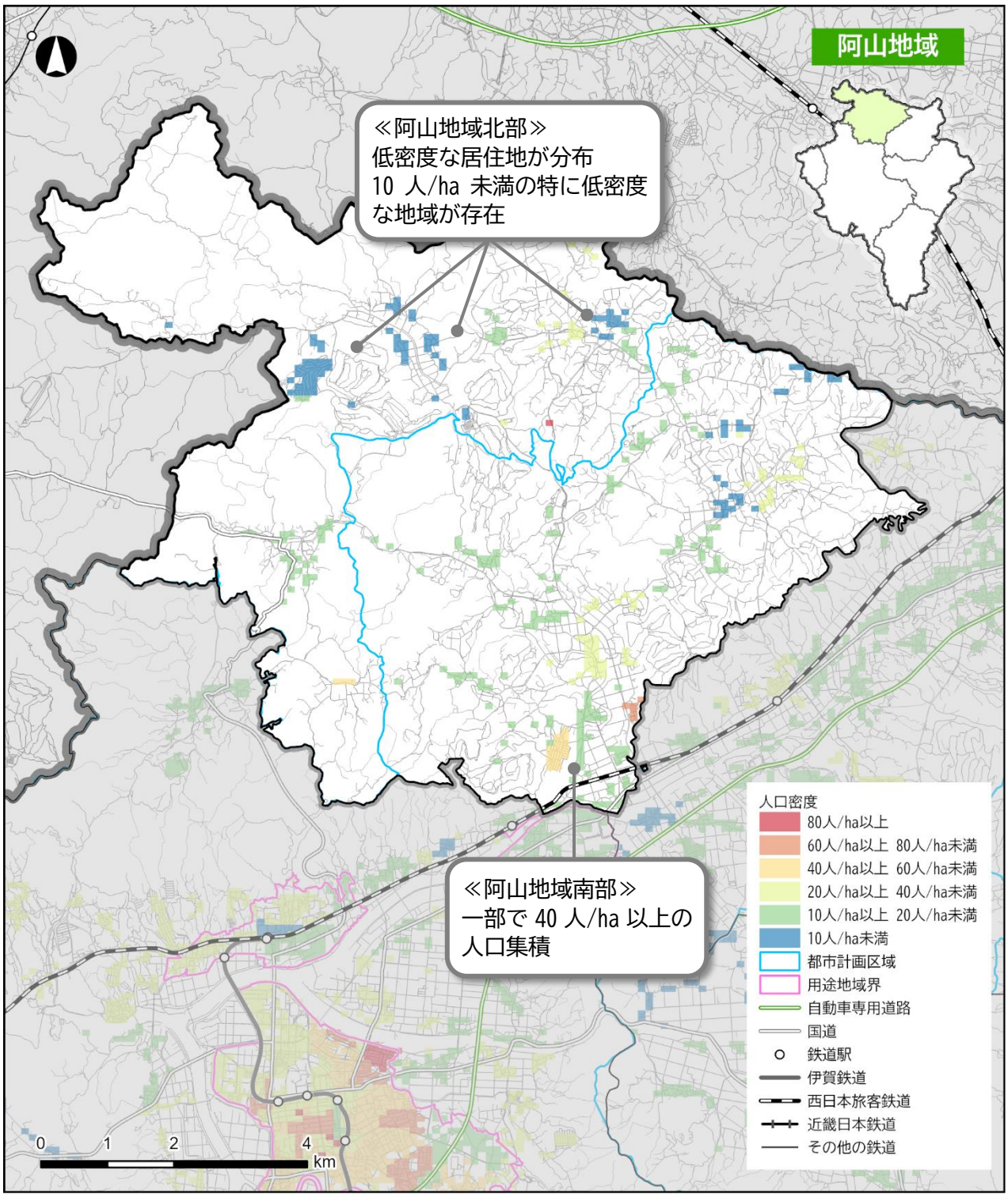
資料：令和２年国勢調査　国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」を用いて作成

図 3-9　人口密度分布（令和２年・100m メッシュ・いがまち地域）



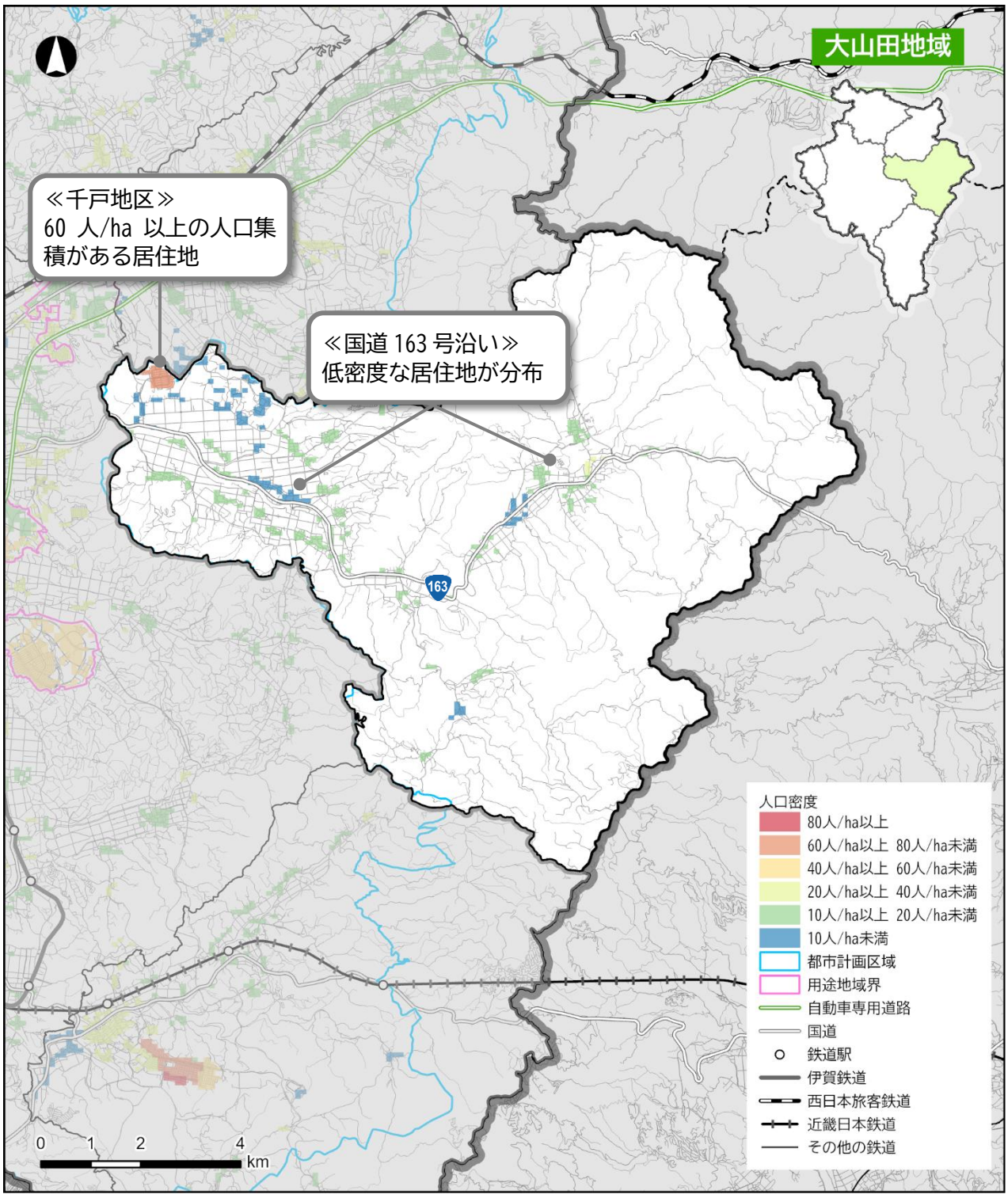
資料：令和２年国勢調査　国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」を用いて作成

図 3-10　人口密度分布（令和２年・100m メッシュ・島ヶ原地域）



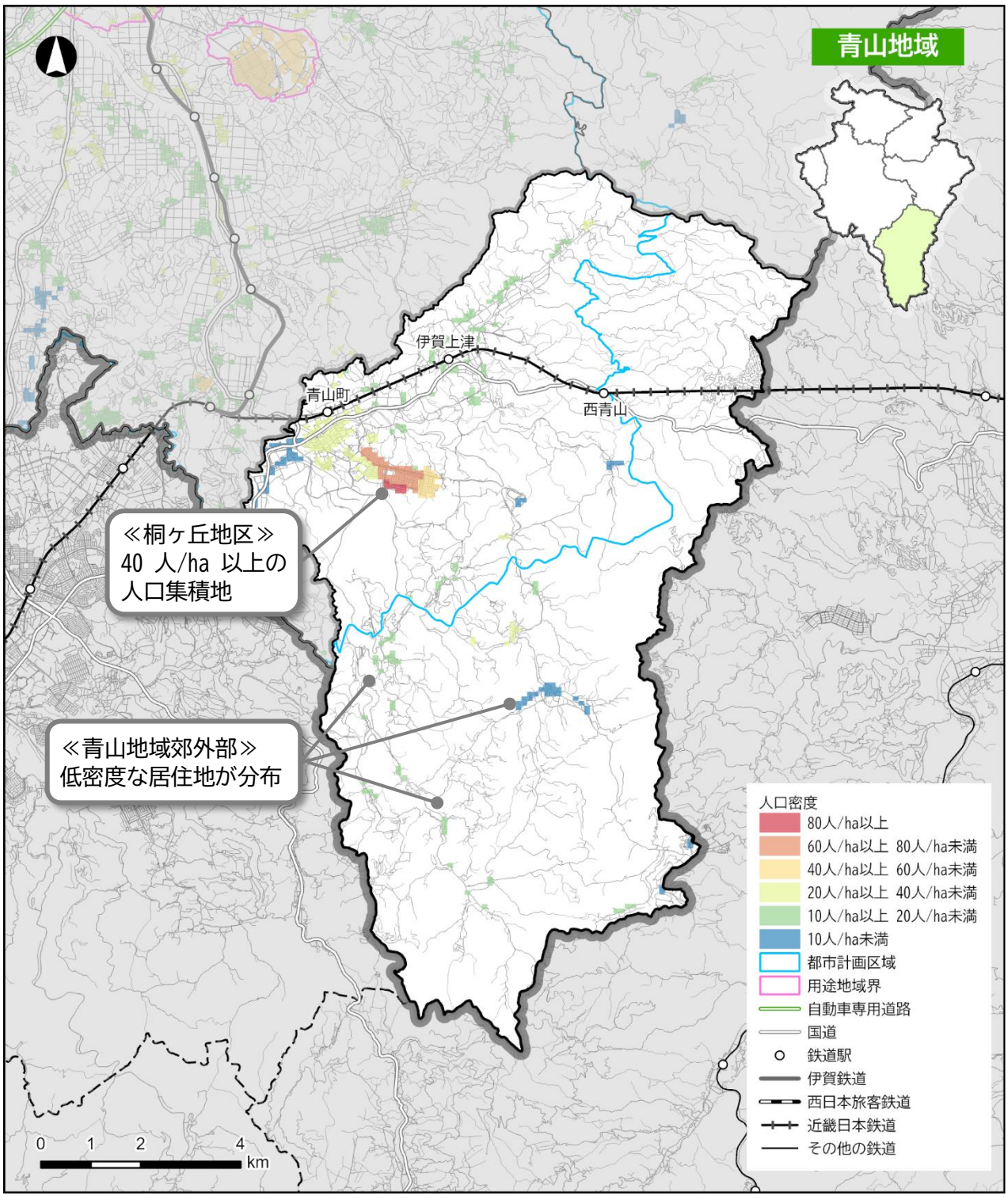
資料：令和２年国勢調査　国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」を用いて作成

図 3-11　人口密度分布（令和２年・100m メッシュ・阿山地域）



資料：令和２年国勢調査　国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」を用いて作成

図 3-12　人口密度分布（令和２年・100m メッシュ・大山田地域）



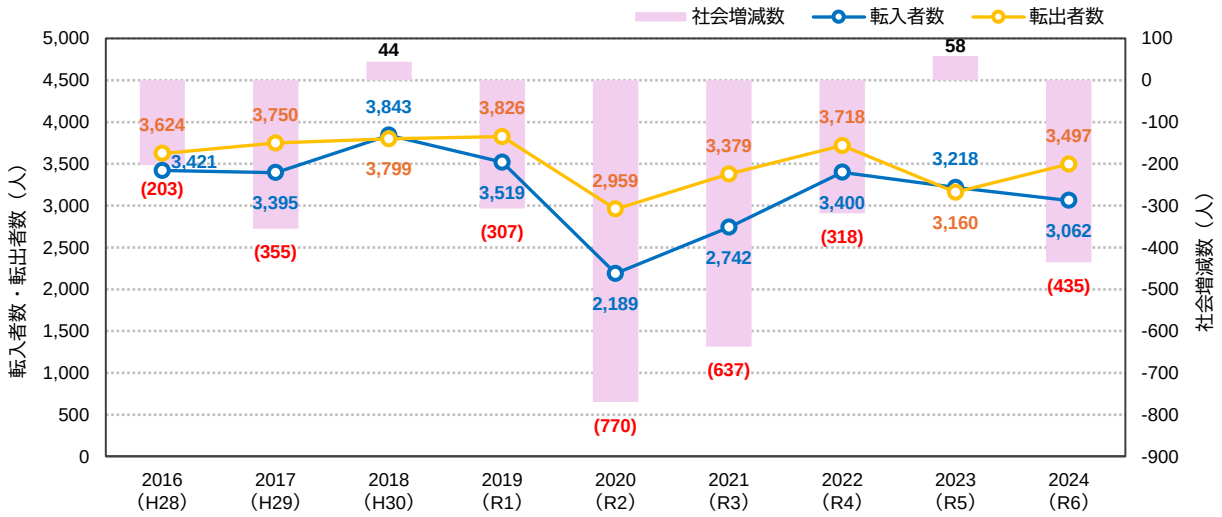
資料：令和２年国勢調査　国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール」を用いて作成

図 3-13　人口密度分布（令和２年・100m メッシュ・青山地域）

（4） 社会増減数[1]

1） 社会増減数の推移

転入者はコロナ禍の令和２年には、年間約 2,200 人まで減少しましたが、令和４年以降は 3,000 人代前半で推移しています。転出者も同様に、令和２年に減少していますが、その他は、年間 3,200～3,900 人となっています。平成 30 年および令和５年はわずかに社会増となりましたが、その他の年では、年間 200～800 人程度の社会減となっています。

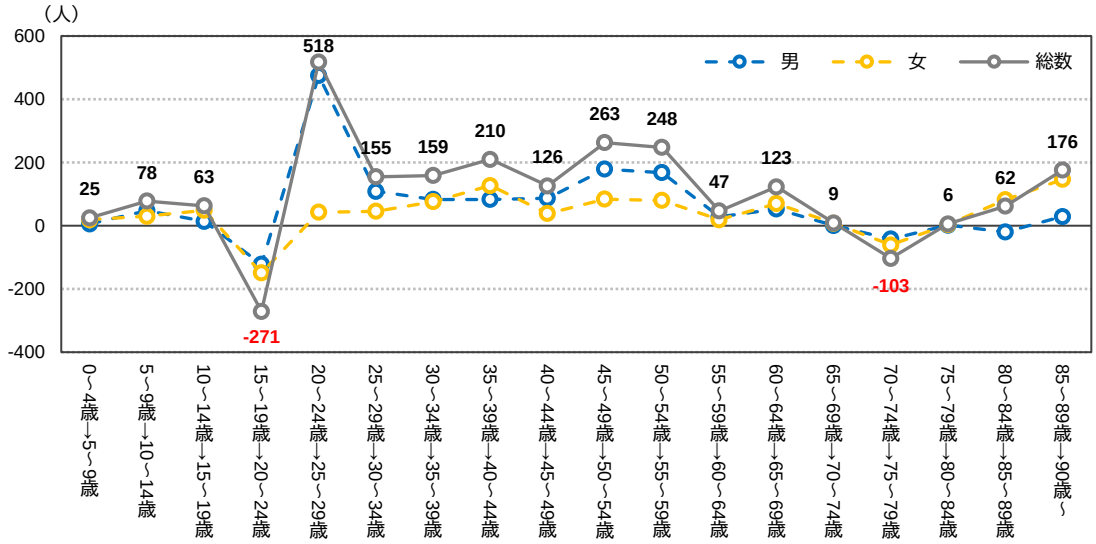


資料：三重県月別人口調査結果

図 3-14　社会増減数の推移

（5） 年齢別人口移動[2]

平成 27 年から令和２年にかけての年齢別の人口移動数では、転出は「15～19 歳→20～24 歳」で最も多く、進学・就職等を機にしたものと考えられます。転入は「20～24 歳→25～29 歳」が最も多く、就職や結婚等を機とした移住が考えられます。



資料：内閣官房・経済産業省 RESAS（国勢調査および都道府県別生命表に基づき作成）

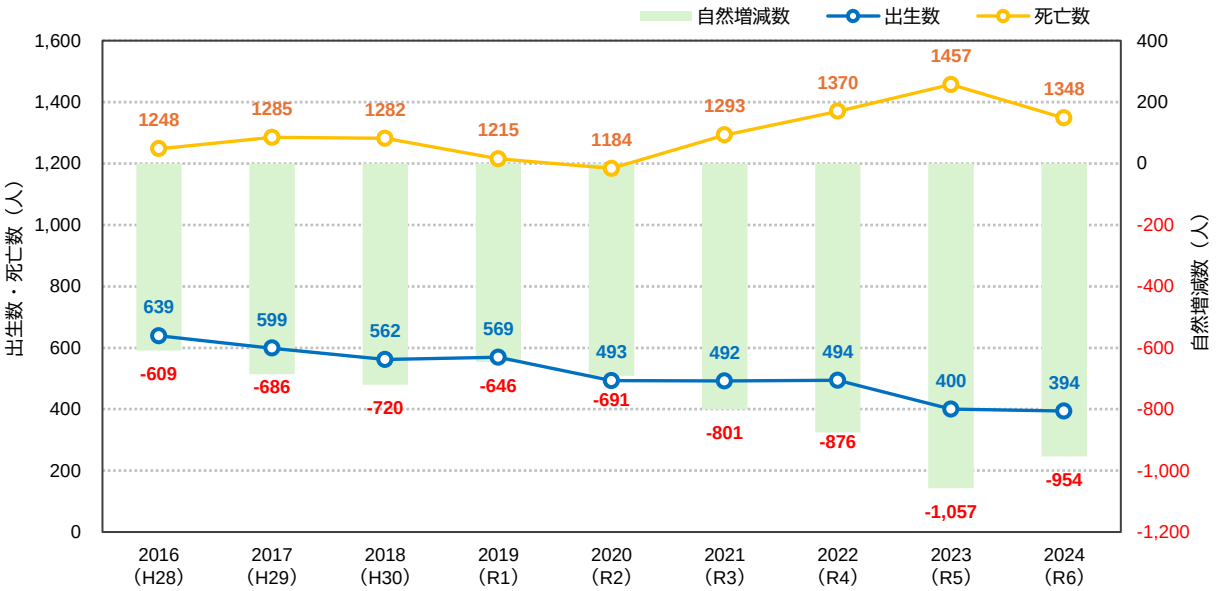
図 3-15　平成 27 年から令和２年の年齢別移動人口

1 社会増減数は、他地域からの転入者数と転出者数による人口の増減数

2 人口移動は、国勢調査を基本とした居住地の移動状況を示す、平成 27 の居住地と令和2年の居住地の比較により、伊賀市からの転出･転入による増減数を示す

（6） 自然増減数[3]

伊賀市の出生数は減少が進んでいる一方で、死亡数は増加傾向にあります。そのため、自然減少が進んでおり、平成 28 年は約 600 人の減少でしたが、令和６年は 1,000 人近い減少となりました。

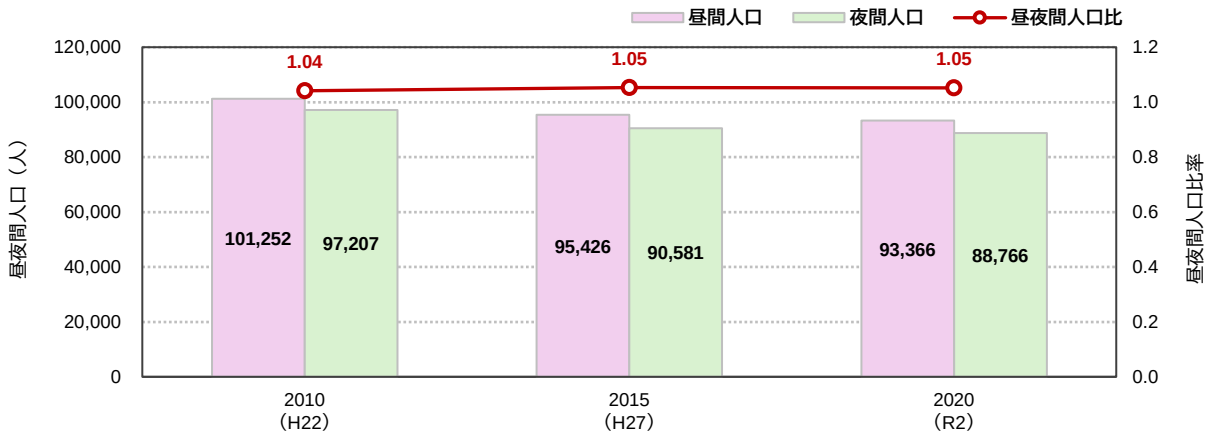


資料：三重県月別人口調査結果

図 3-16　自然増減数の推移

（7） 昼夜間人口[4]

伊賀市の昼間人口、夜間人口ともに減少傾向にあります。昼夜間人口比率[5]は令和２年時点で 1.05 とわずかに昼間人口が上回っています。



資料：国勢調査

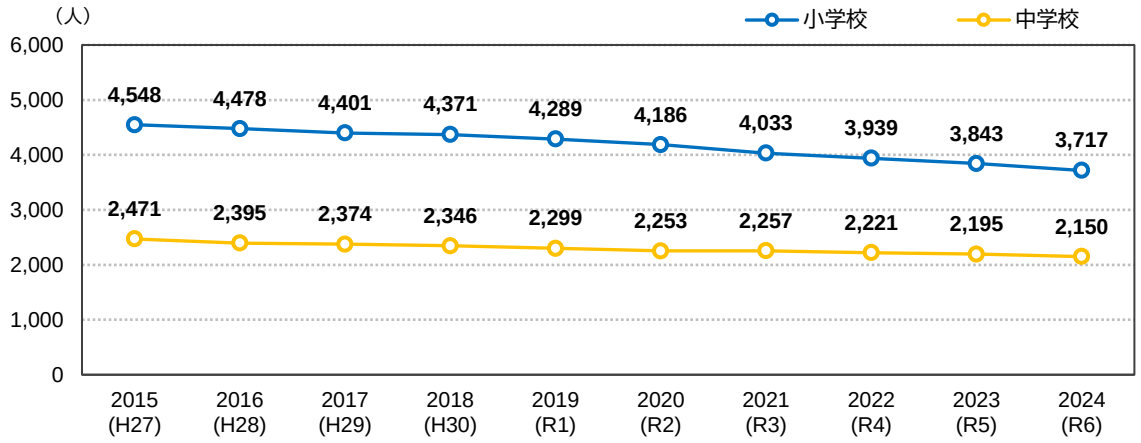
図 3-17　昼夜間人口の推移

3 自然増減数は、出生数と死亡数による人口の増減数
4 昼間人口＝伊賀市の人口（夜間人口）−伊賀市からの流出人口（伊賀市から他市町村への通勤・通学者数）
＋伊賀市への流入人口（他市町村から伊賀市への通勤・通学者数）
5 昼夜間人口比率＝（昼間人口/夜間人口）

3-4　学校教育

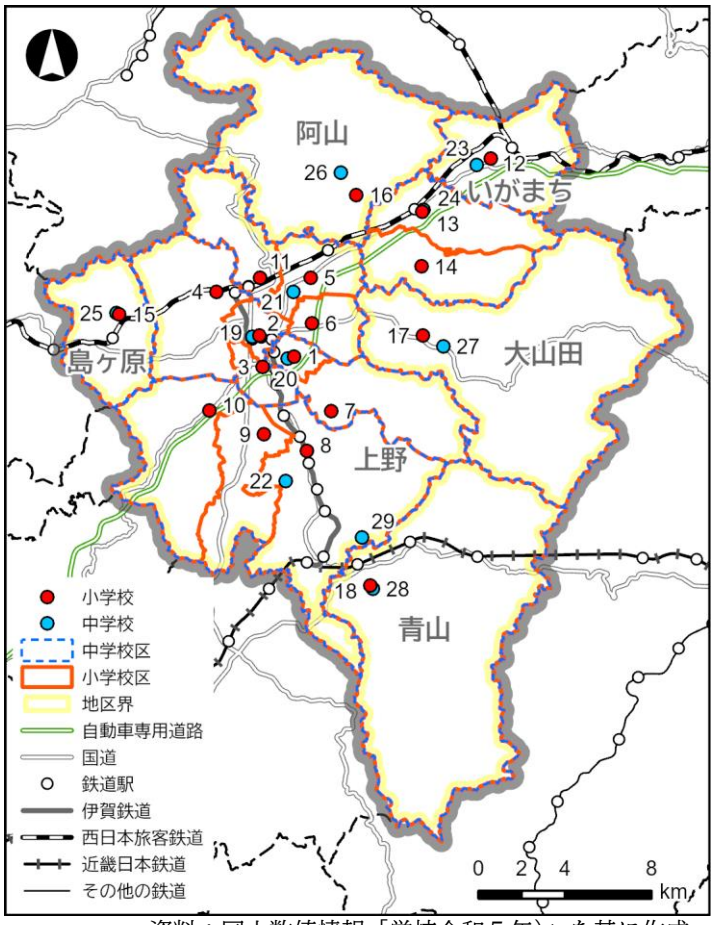
(1) 小学校・中学校

小学校の児童数は、令和６年度には 3,717 人で、平成 27 年度から約 18%減少しています。中学校の生徒数は、令和６年度は 2,150 人で、平成 27 年度と比較し、13%減少しています。



資料：学校基本調査

図 3-18　小中学校の児童・生徒数の推移



資料：国土数値情報「学校令和５年)」を基に作成

図 3-19　小中学校の位置・校区

表 3-3　小中学校の一覧

No.	小学校	No.	中学校
1	上野東小学校	19	崇広中学校
2	上野西小学校	20	緑ケ丘中学校
3	久米小学校	21	城東中学校
4	上野北小学校	22	上野南中学校
5	府中小学校	23	柘植中学校
6	中瀬小学校	24	霊峰中学校
7	友生小学校	25	島ヶ原中学校
8	上野南小学校	26	阿山中学校
9	成和東小学校	27	大山田中学校
10	成和西小学校	28	青山中学校
11	三訪小学校	29	桜丘中学校
12	柘植小学校		
13	西柘植小学校		
14	壬生野小学校		
15	島ヶ原小学校		
16	阿山小学校		
17	大山田小学校		
18	青山小学校		

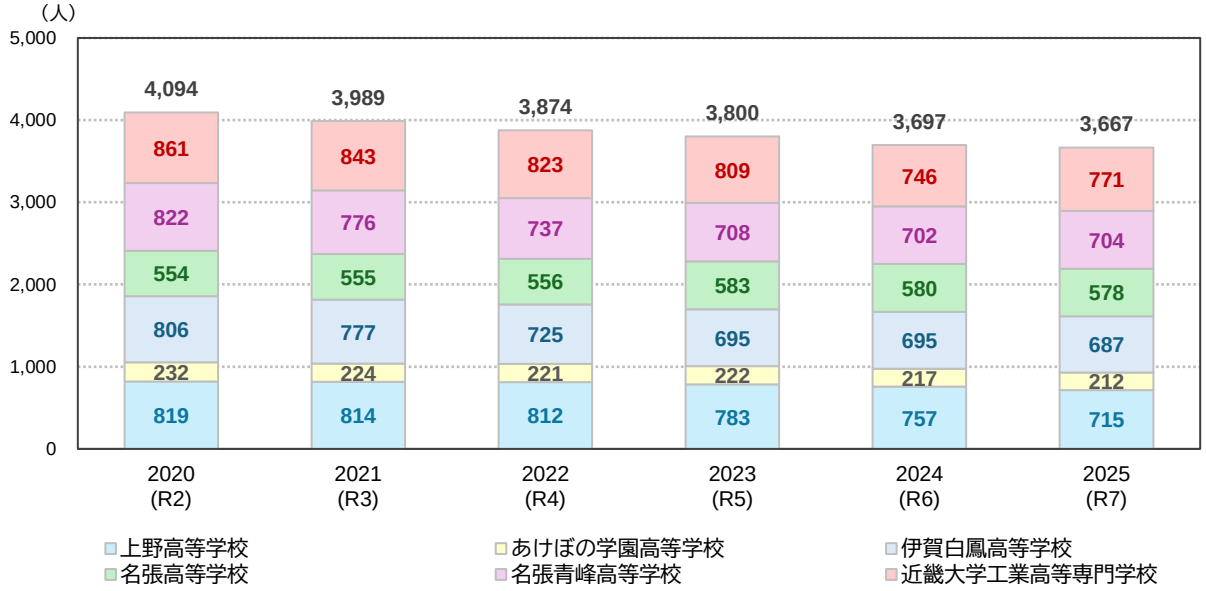
(2) 高等学校

伊賀市の高等学校は、公立の上野高等学校、あけぼの学園高等学校※、伊賀白鳳高等学校、私立の桜丘学園桜丘高等学校、愛農学園農業高等学校、神村学園高等部伊賀分校の計６校があります。

また通学圏域である名張市には、公立の名張高等学校、名張青峰高等学校、私立の近畿大学工業高等専門学校、英心高等学校桔梗が丘校の４校があります。

伊賀市および名張市にある公立高校および高等専門学校の生徒数は、年々減少傾向にあり、６校合計数は、令和７年は 3,667 人と、令和２年より１割減少しています。

※あけぼの学園高等学校は令和 10 年度に募集停止予定

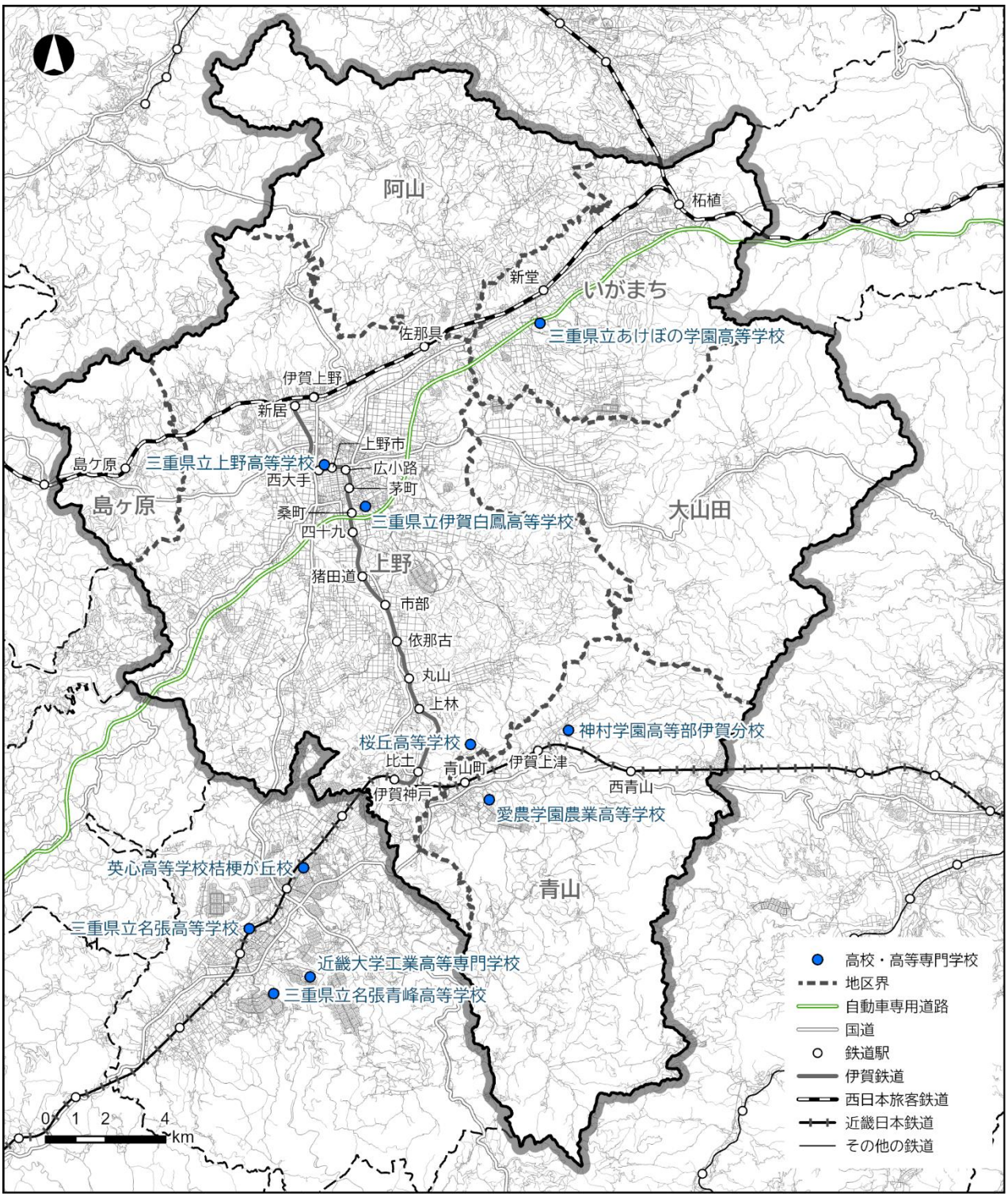


資料：三重県教育委員会学校名簿（各年 5 月 1 日現在）

図 3-20　高等学校の生徒数の推移（公立高校・高等専門学校）

上野高等学校は、伊賀鉄道の上野市駅及び西大手駅から徒歩５分程度とアクセス性が高い場所に立地しています。

伊賀白鳳高等学校についても、伊賀鉄道の桑町駅及び茅町駅から徒歩 10 分程度のアクセスとなっています。



資料：国土数値情報　「学校令和５年)」を基に作成

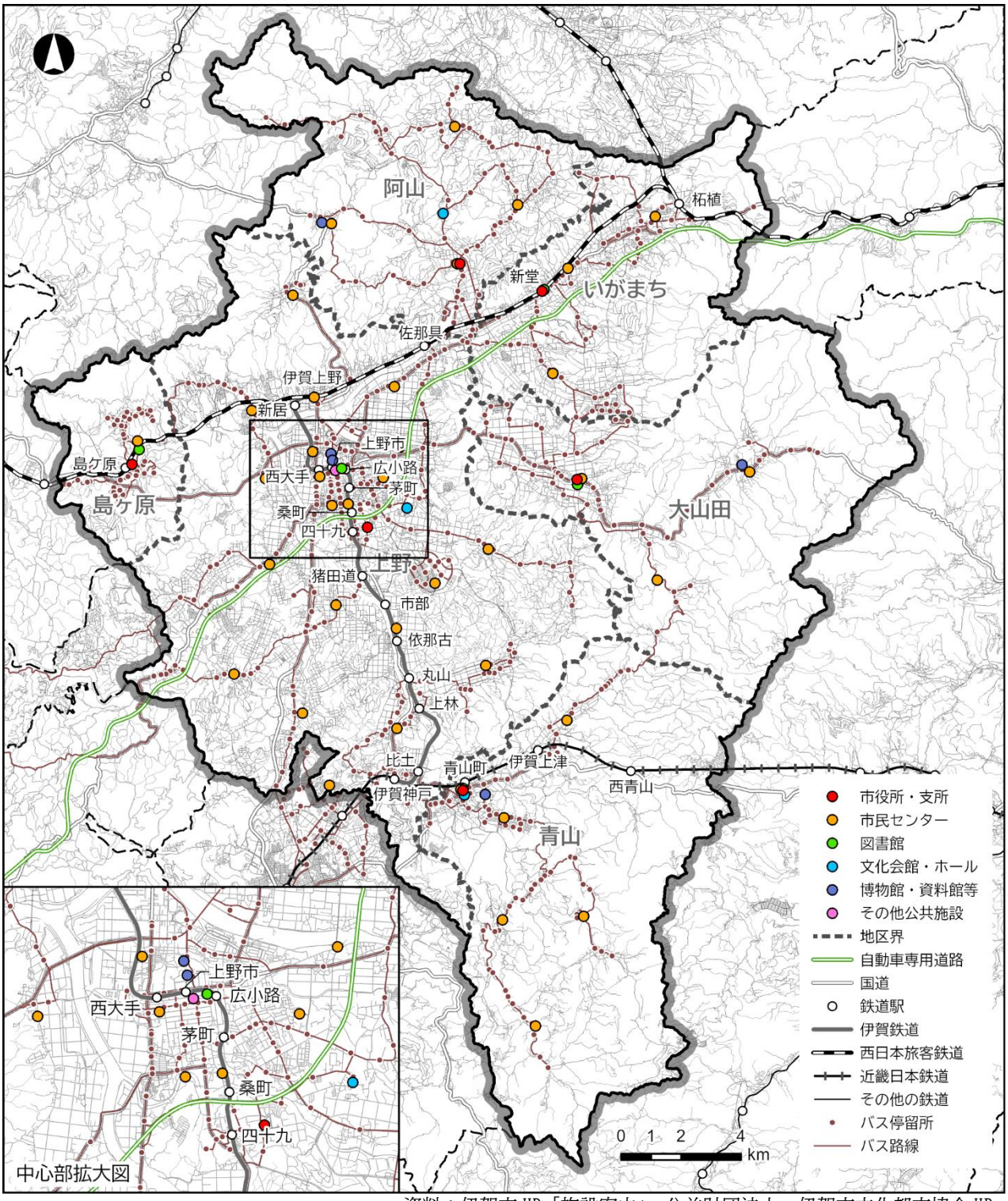
図 3-21　高等学校の分布図

3-5　施設分布

(1) 公共施設

上野地域以外の各地域では、地域の中心地に支所が位置しており、支所を中心に複数の公共施設が分布しています。施設の多くはバス路線の沿線に位置しています。

市の中心となる上野地域の市街地には、図書館、博物館、その他公共施設等、複数種の公共施設が立地しています。



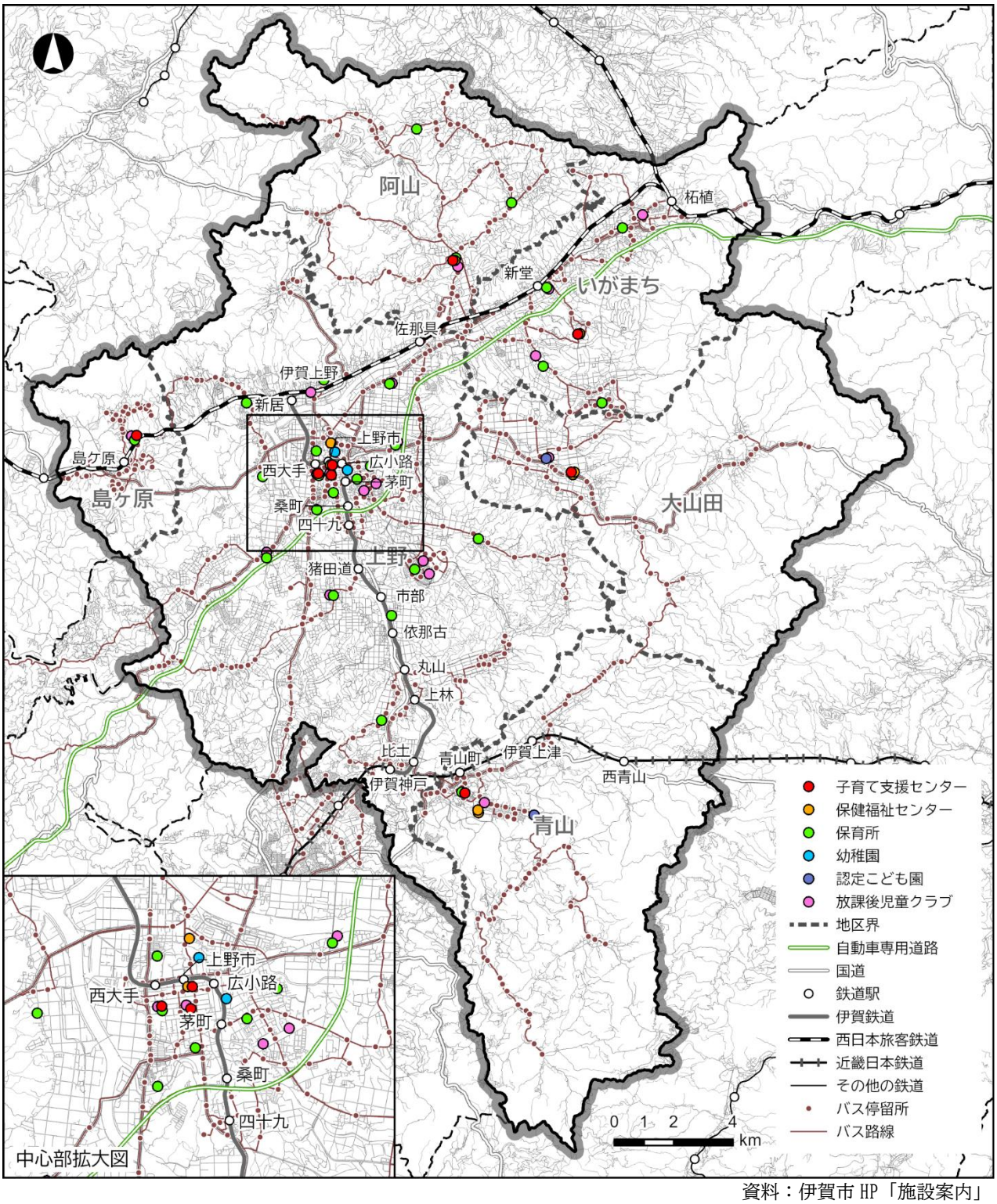
資料：伊賀市 HP「施設案内」、公益財団法人　伊賀市文化都市協会 HP

図 3-22　公共施設の分布図

(2) 子育て支援施設

子育て支援センターは各地域の中心部に立地しており、それらは全て保健福祉センター等との複合的な子育て支援機能を有しています。保育所、幼稚園、認定こども園、放課後児童クラブは市内に広く分布しています。

上野地域の市街地には、子育て支援センターをはじめ、複数種類の子育て支援施設が集積しています。



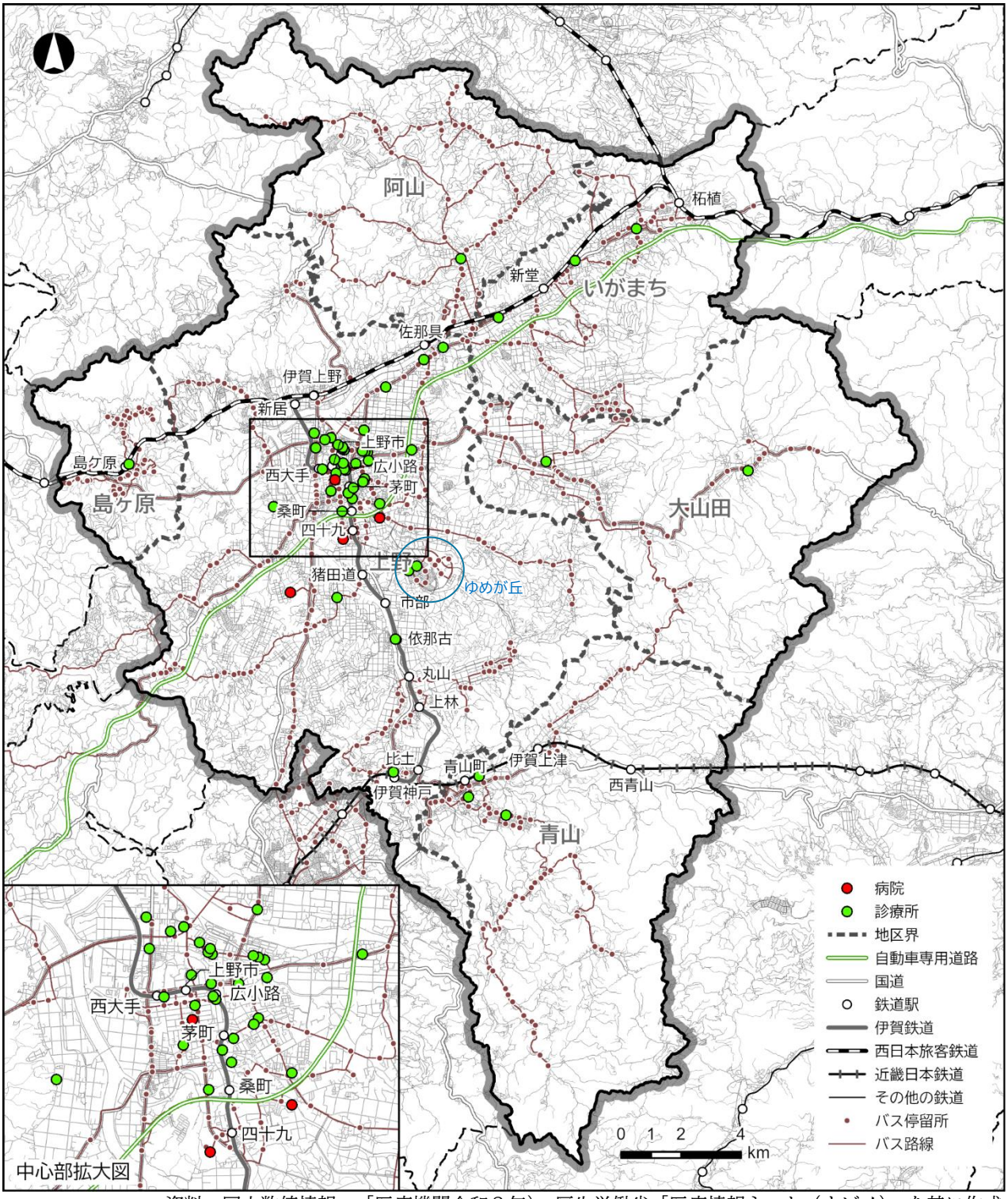
資料：伊賀市 HP「施設案内」

図 3-23　子育て支援施設の分布図

(3) 医療施設

医療施設は市内に広く分布しており、特に市の中心部である上野地域の市街地に集積しています。また、ゆめが丘地区や、青山町駅の周辺にもまとまって立地しています。

病院に限ると、上野地域のみに集中して立地しています。

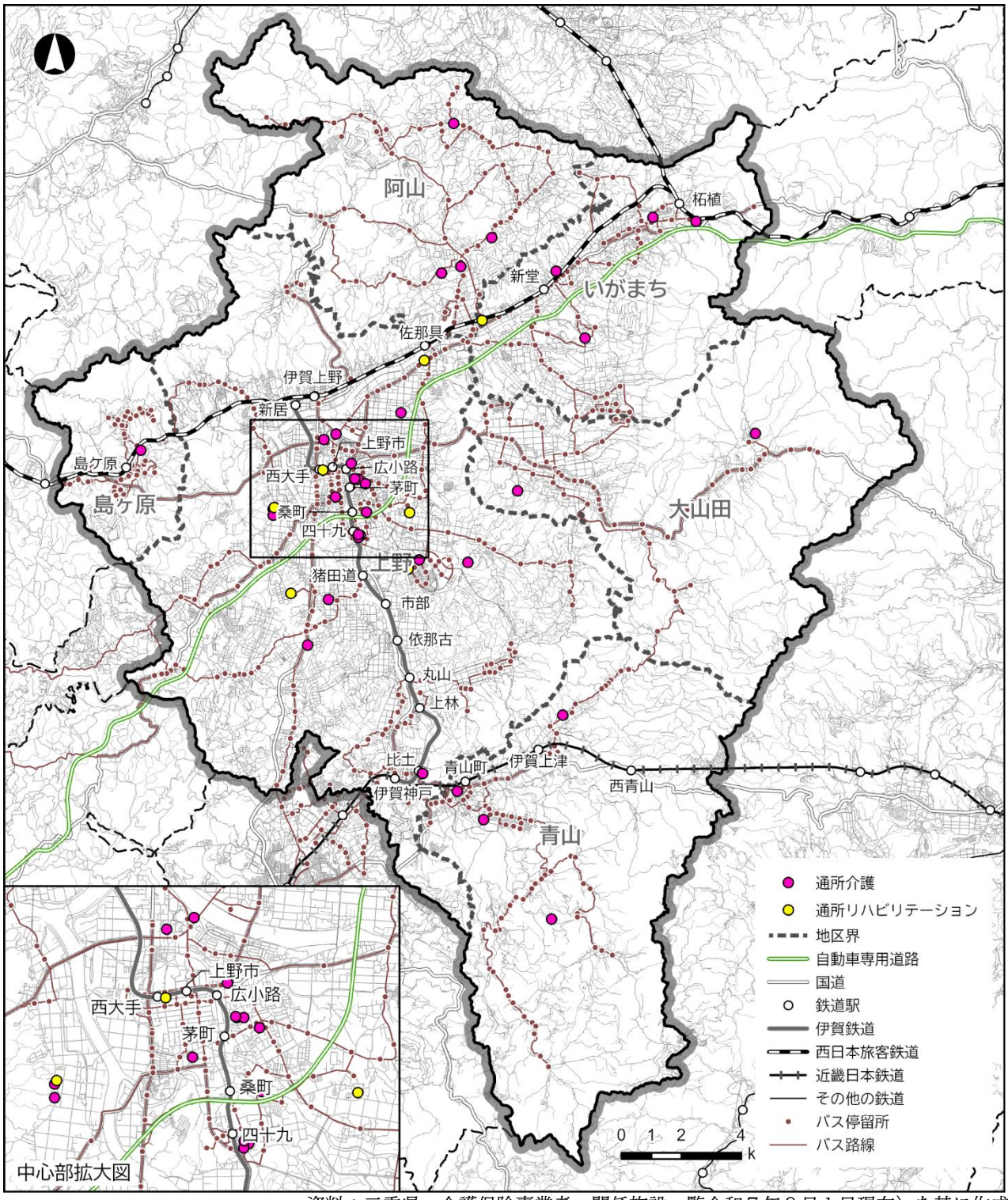


資料：国土数値情報　「医療機関令和２年)」厚生労働省「医療情報ネット（ナビイ)」を基に作成

図 3-24　医療施設の分布図

（4） 福祉施設

通所系施設は、通所介護施設は市内各地域に広く分布しています。通所リハビリテーションは、上野地域に主に分布しています。



資料：三重県　介護保険事業者・関係施設一覧令和７年９月１日現在）を基に作成

図 3-25　福祉施設の分布図

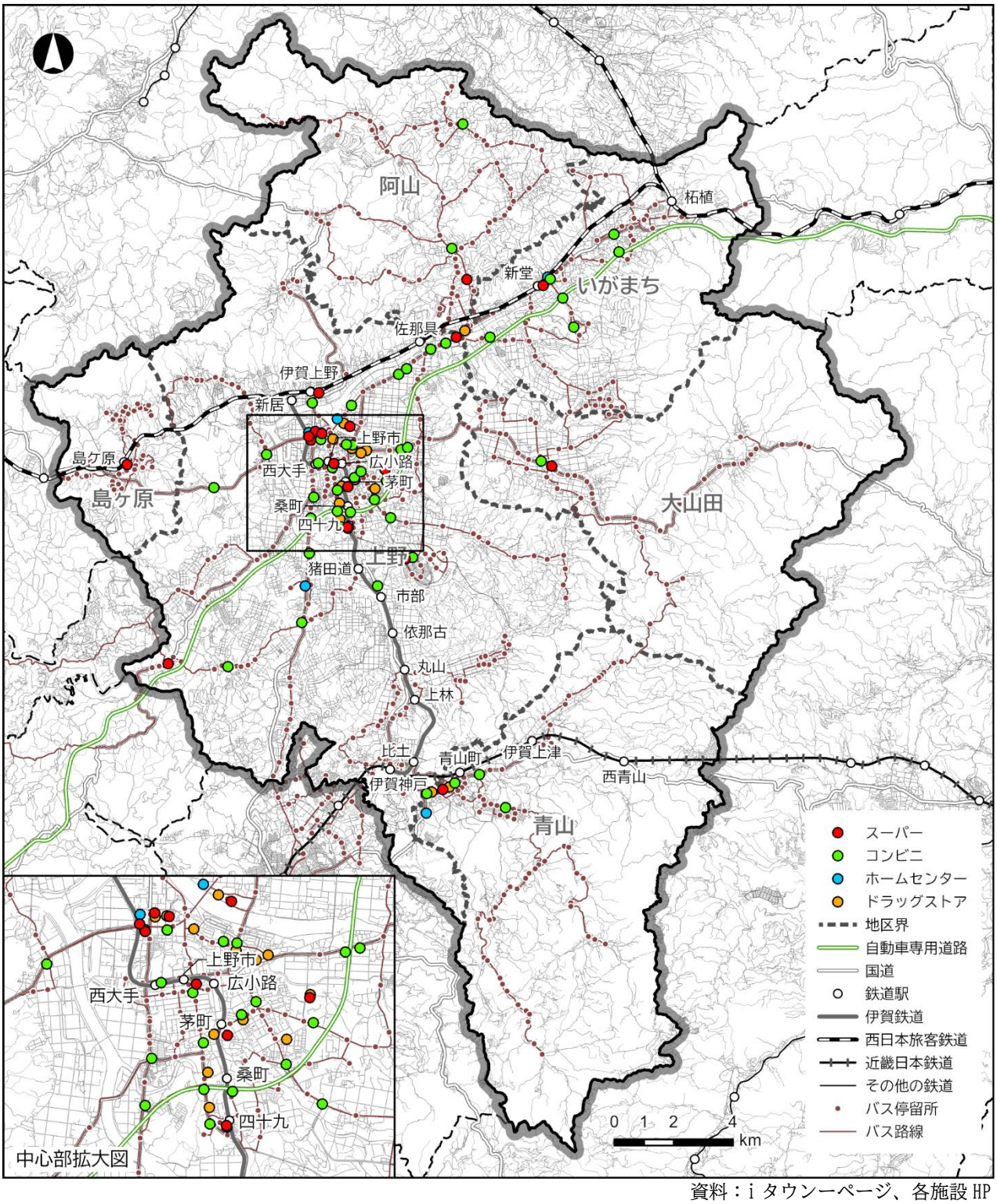
(5) 商業施設

スーパーは市の中心部である上野地域市街地に複数立地しています。各地域にもスーパーがあり、鉄道駅周辺や、バス停近傍に立地しています。

コンビニエンスストアは、幹線道路沿線に主に分布しています。

ホームセンターは上野地域、青山地域に立地しており、バス停の概ね 300m圏域にあります。

ドラッグストアは上野地域、青山地域、阿山地域に立地しており、上野地域ではバス停から 300m圏域外にも複数立地しています。



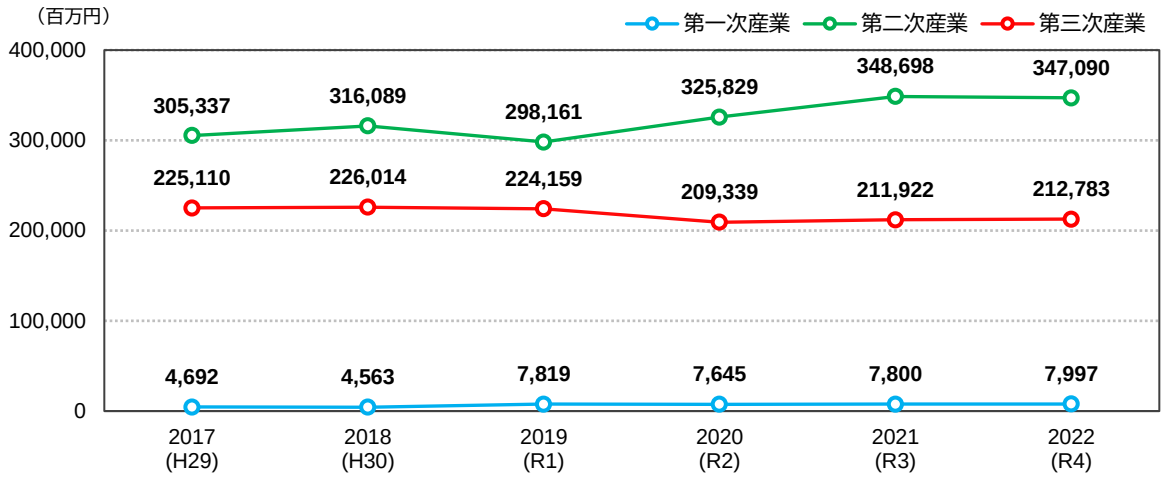
資料：i タウンページ、各施設 HP

図 3-26　商業施設の分布図

3-6　産業動向

(1) 市内総生産の推移

伊賀市の市内総生産額は、第二次産業が最も大きく、増加傾向にあります。第一次産業も増加傾向にあり、第三次産業については、令和２年以降は横ばいとなっています。

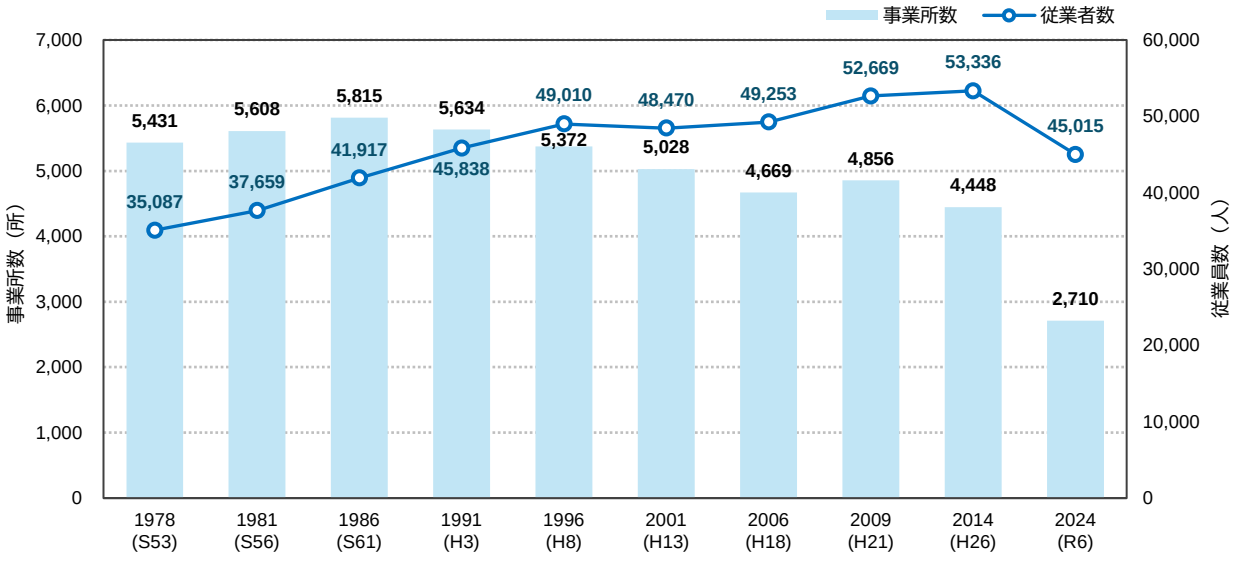


資料：三重県の市町民経済計算

図 3-27　市内総生産の推移

(2) 事業所数・従業員数の推移

伊賀市の事業所数は、1986（昭和 61）年をピークに減少を続け、令和６年には、2,710 か所となっています。一方で、従業員数は増加傾向にありましたが、令和６年は減少し、45,015 人となっています。

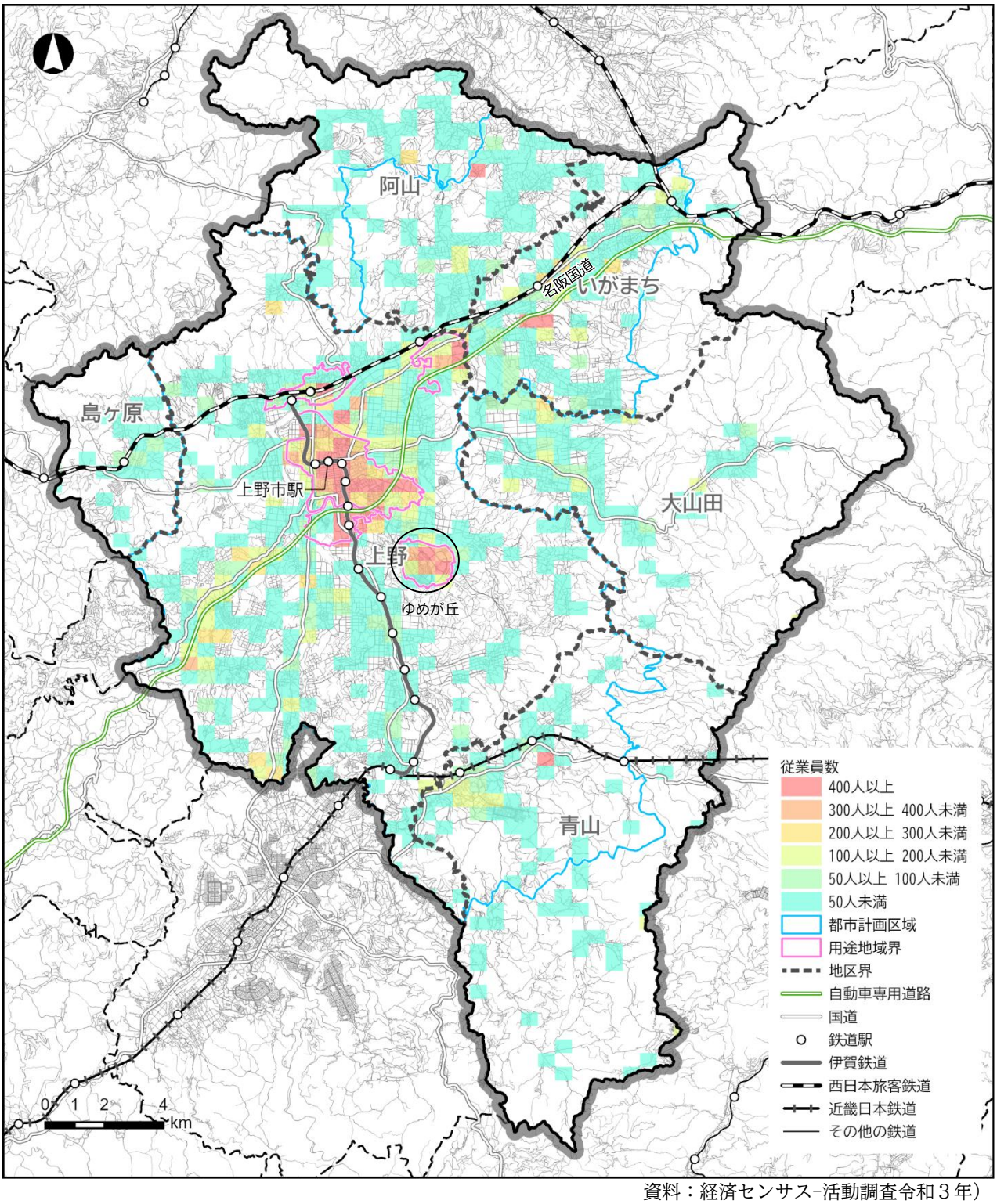


資料：事業所・企業統計調査(S53.7.1～H18.10.1)、経済センサス-基礎調査（H21.7.1 以降）

図 3-28　事業所数・従業員の推移

(3) 従業員の分布

従業員は上野地域の中心市街地、ゆめが丘地区、名阪国道沿線に多く分布しています。



資料：経済センサス-活動調査令和３年）

図 3-29　従業員数の分布（全業種）

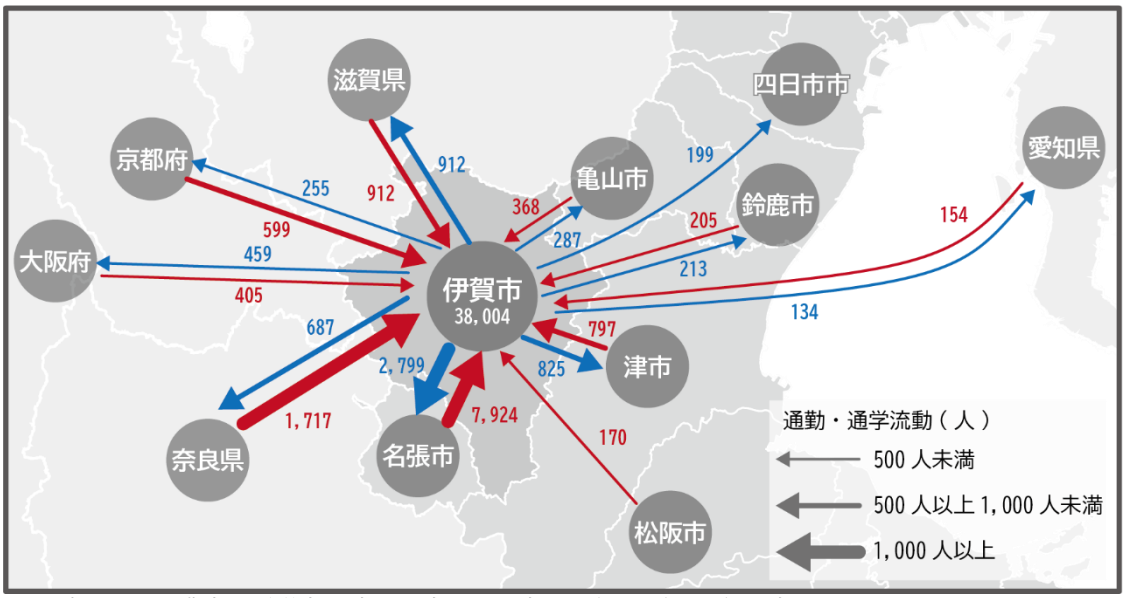
3-7　通勤・通学流動

(1) 通勤・通学を合わせた流動

伊賀市の周辺自治体との間の通勤及び通学流動状況は、名張市との間の流動が最も多く、流出人口 2,799 人、流入人口が 7,924 人となっています。三重県内では、次いで津市が多く、流出・流入ともに、1,000 人以下となっています。

県外では、奈良県からの流入人口が 1,717 人と 1,000 人を超えるほか、滋賀県は流出・流入人口ともに約 900 人となっています。

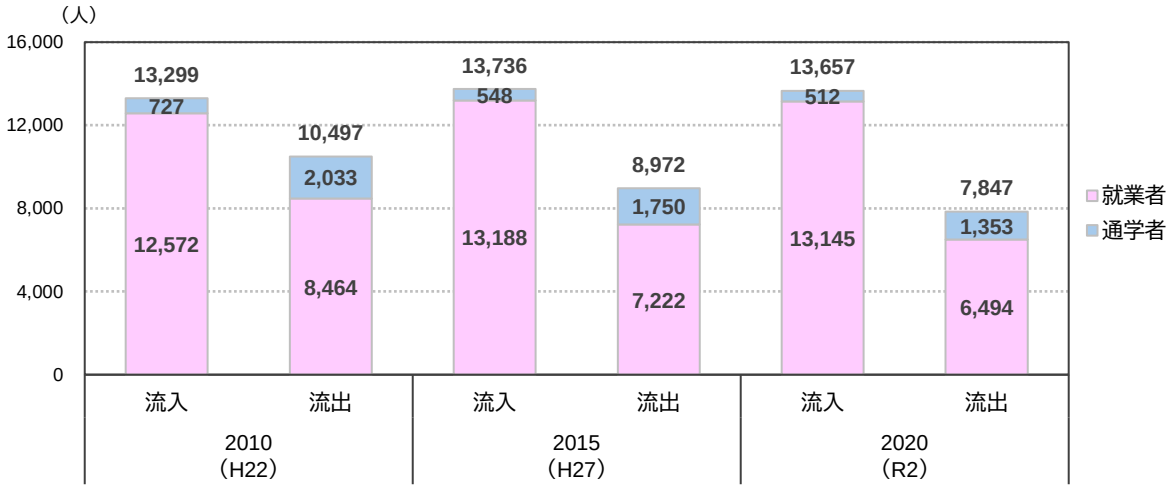
流動数の推移をみると、流入人口は 13,000 人台を維持しています。一方で、伊賀市からの流出人口は平成 22 年からの令和２年にかけ、約 2,600 人減少しており、伊賀市の生産年齢の減少が要因であると考えられます。



※15 歳以上の就業者・通学者、流入・流出とも流動の多い上位 10 件を表示
伊賀市の 38,004 人は市内に居住し市内で通勤・通学している人数

資料：令和２年国勢調査

図 3-30　通勤・通学を合わせた流動



※15 歳以上の就業者・通学者

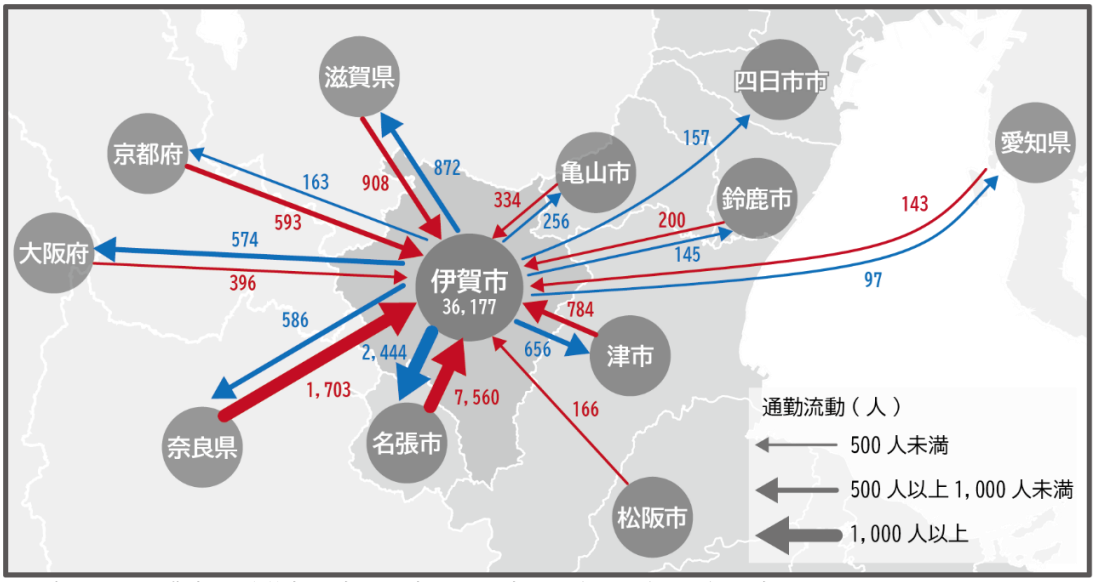
資料：国勢調査

図 3-31　通勤・通学流動の推移

(2) 通勤流動

通勤による周辺自治体との間の流動状況は、名張市との間の流動が最も多く、流出人口が 2,444 人、流入人口が 7,560 人となっています。三重県内では、次いで津市が多く、流出が 656 人、流入が 784 人となっています。

また、県外では、奈良市からの流入が 1,703 人となっているほか、滋賀県、大阪府、京都府、愛知県といった広域的な流動も見られます。



※15 歳以上の就業者・通学者、流入・流出とも流動の多い上位 10 件を表示
伊賀市の 36,177 人は市内に居住し市内で通勤している人数

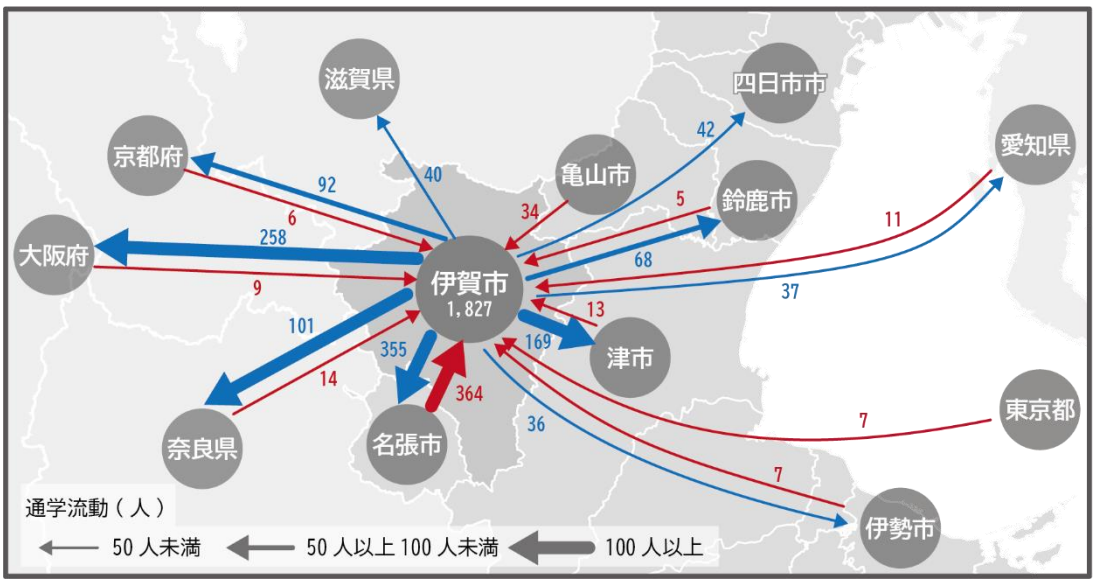
資料：令和２年国勢調査

図 3-32　通勤流動

(3) 通学流動

通学による流動状況は、流入よりも流出が多くなっています。流出・流入ともに名張市が最も多く、約 350 人の流出入があります。三重県内で次に多い津市へは 169 人の流出があります。

また、県外では、大阪府への流出人口が 258 人と特に多いほか、奈良県、京都府への流出人口が約 100 人程度となっています。



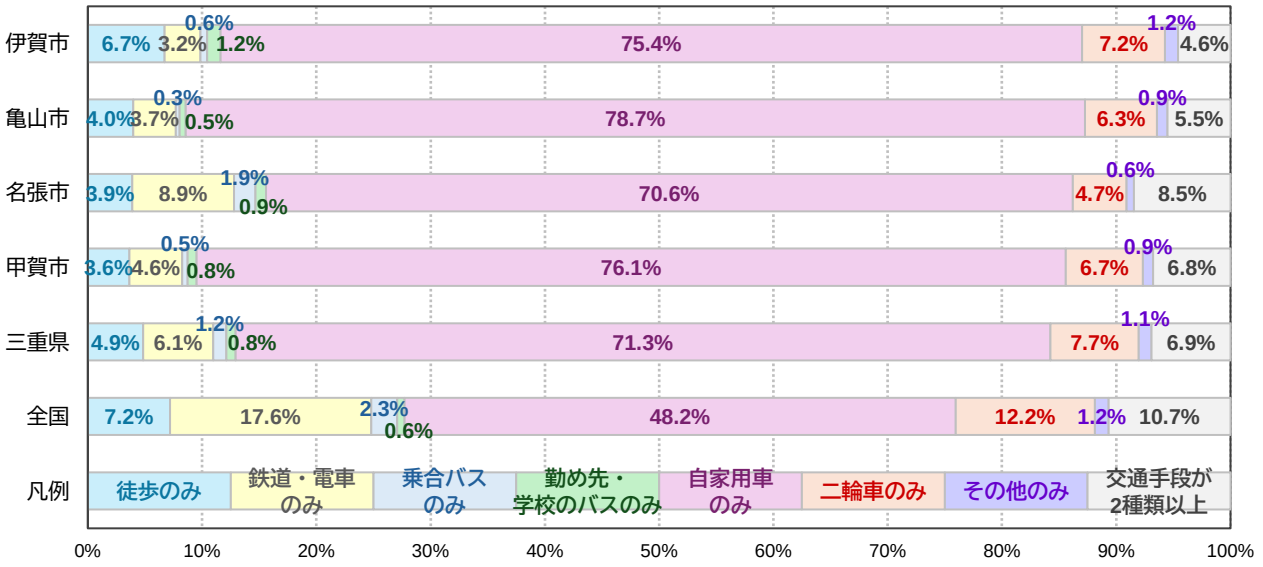
※15 歳以上の就業者・通学者、流入・流出とも流動の多い上位 10 件を表示
伊賀市の 1,827 人は市内に居住し市内で通学している人数

資料：令和２年国勢調査

図 3-33　通学流動

（4） 通勤・通学の交通手段

伊賀市の通勤・通学における利用交通手段は、７割以上が自家用車で、これは名張市、三重県、全国と比較して高い割合となっています。



資料：令和２年国勢調査

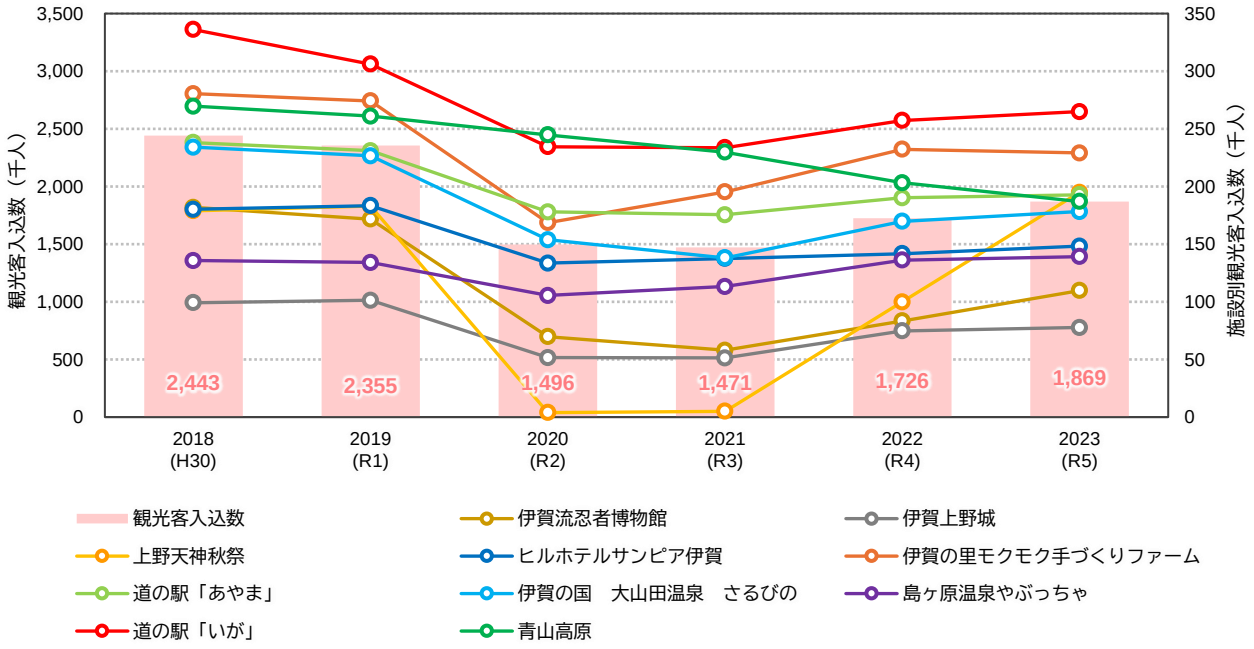
図 3-34　通勤・通学における交通手段分担率

3-8　観光動向

(1) 観光客入込数

伊賀市の観光客入込客数は、平成 30 年は 2,443 千人でしたが、コロナ禍の影響を受け、令和３年には、およそ 100 万人減少しました。その後、回復傾向にありますが、令和５年は 1,869 千人と、平成 30 年と比較して、20%以上少ない状況です。

施設別でも、各施設・イベントでコロナ禍の影響がみられます。多くの施設ではその後回復傾向にありますが、「青山高原」は減少を続けています。また、「上野天神秋祭」および「島ヶ原温泉やぶっちゃ」を除いては、コロナ禍以前の水準への回復に至っていません。



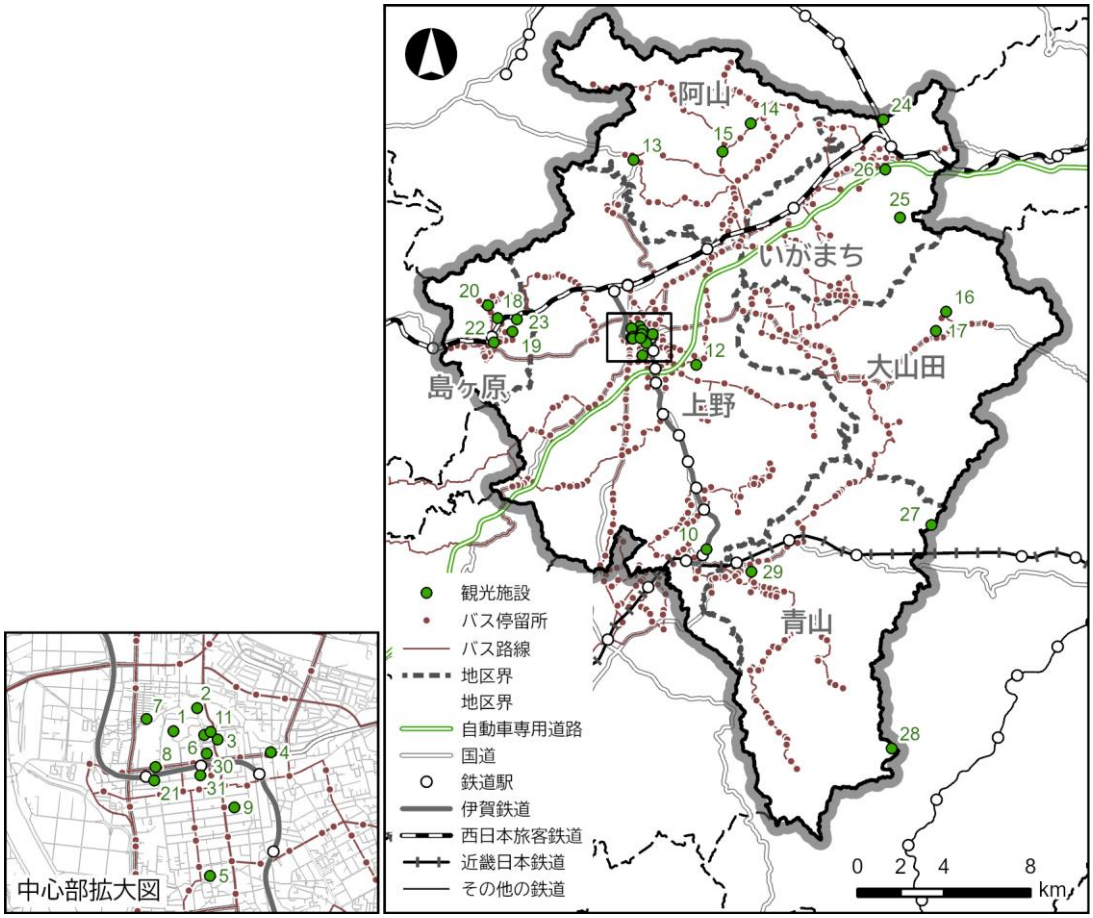
※施設別は令和5年の観光客入込数が上位 10 件の施設を表示、観光客入込数は調査対象の全施設の合計

資料：伊賀市統計書

図 3-35　観光客入込数推移

（2） 観光施設分布

観光施設は、上野地域の市街地に集積しているほか、島ヶ原地域にもまとまって分布しています。市の郊外や外縁部にも、観光施設が分布しています。



資料：伊賀市統計書、一般社団法人伊賀上野観光協会 HP

図 3-36　観光施設の分布

表 3-4　観光施設の一覧

No.	名称	No.	名称	No.	名称
1	伊賀上野城	12	ヒルホテルサンピア伊賀	23	島ヶ原温泉やぶっちゃ
2	伊賀流忍者博物館	13	伊賀焼伝統産業会館	24	余野公園
3	だんじり会館	14	モクモク手づくりファーム	25	霊山
4	芭蕉翁生家	15	道の駅「あやま」	26	道の駅「いが」
5	蓑虫庵	16	さるびの温泉	27	青山高原
6	芭蕉翁記念館	17	新大仏寺	28	メナード青山
7	旧小田小学校	18	鸕宮神社	29	伊賀市ミュージアム青山讃頌舎
8	旧崇廣堂	19	普門窯	30	旧上野市庁舎 SAKAKURA BASE
9	入交家住宅	20	正月堂	31	伊賀流忍者体験施設「万川集海」
10	城之越遺跡	21	まちかど博物館醤油蔵		
11	伊賀くみひも　組匠の里	22	旧本陣		

(3) 観光客の移動

市内の観光移動は施設によっては、公共交通でのアクセスが困難であり、車がメインとなっています。

伊賀忍者ライナーは評判もよく、今後も観光施策と連携した、公共交通利用促進について様々な展開が期待されます。

表 3-5　観光客の移動に関する現状

観光の動向
• 国内は、日帰り客が多い • インバウンドの割合としては、コロナ禍以前より増えており、客層は、台湾やマレーシアが多く、オーストラリアからのツアーが多い • 伊賀市内の観光はまだまだ国内の人が多い
観光施設と主な移動手段について
• 市内の多くの観光施設は、車での利用が多い • 「芭蕉翁生家」、「蓑虫庵」、「伊賀伝統伝承館　伊賀くみひも組匠の里」は鉄道駅から徒歩圏内であるため、鉄道利用者もいる • 施設によっては公共交通でのアクセスが難しく、鉄道駅からタクシーを案内する場合がある
市内の観光移動に対する観光客の評価
【市外からのアクセス】 • 三重交通と連携した伊賀忍者ライナーは使い勝手が良いという声がある • JR 西日本の WESTER を活用した「お茶と忍びの里満喫パス」は月 30～40 人が購入 • 近鉄との連携商品がない • 高速バスの大阪行、京都行がなくなったが、大阪万博や京都のオーバーツーリズムがあったため存続しているとよかった 【市内の周遊】 • 語り部を同乗させ、市街地を周遊していた忍者号は採算が取れず廃止した • 上野市駅前のレンタサイクルがなくなった
公共交通の利用促進について
• 文化都市協会主催のイベントの際、車だけでなく、公共交通機関利用の案内を掲載してはどうか • JR 西日本や三重交通とはすでに連携しているが、公共交通事業者からのコラボの発信があれば連携したい • 甲賀市観光協会と連携し、伊賀鉄道協力のもと鉄道ツアーを企画 • 関西 MaaS に忍者博物館が連携している、伊賀市独自での実施は困難 • コインロッカーを充実させたい • 上野市駅とモクモクやさるびのを結ぶ交通手段があればよい • 伊賀でバスまつりができれば良いのではないか

資料：伊賀市地域公共交通計画策定に向けたヒアリング調査（令和 7 年 9 月実施　伊賀上野観光協会が回答）

3-9　自動車交通

(1) 自動車保有率

伊賀市の自動車保有台数は 81,669 台で、人口あたりの自動車保有率は 96%となっています。近隣の市と比較すると、伊賀市の自動車保有率がやや高いことがわかります。

表 3-6　人口あたりの自動車保有台数

	自動車保有台数（台）	人口（人）	人口あたりの自動車保有台数（台/人）
伊賀市	81,669	84,851	0.96
津市	230,813	269,645	0.86
亀山市	45,442	49,614	0.92
名張市	55,945	74,087	0.76

資料：令和７年刊 三重県統計書（自動車保有台数令和 6 年 3 月 31 日現在、人口令和 5 年 10 月 1 日現在）

(2) 運転免許返納状況

運転免許返納状況は下表のとおりです。伊賀市では年間で 300 人近くが運転免許を返納しています。そのうち、65 歳以上の高齢者が 95%以上を占めています。

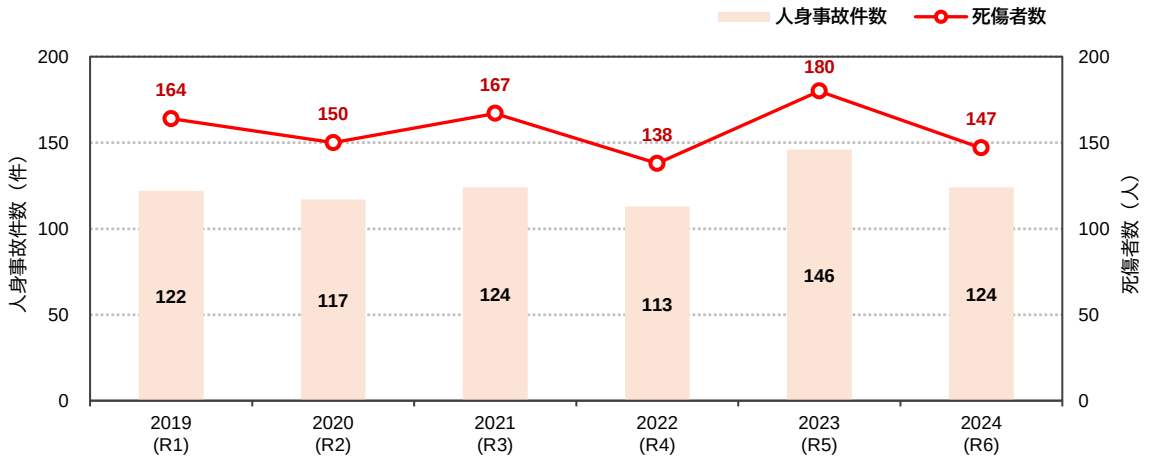
表 3-7　運転免許返納者数

市	項目	令和５年	令和６年
伊賀市	運転免許取消者数	274	282
	うち 65 歳以上（割合）	268（97.8%）	275（97.5%）
名張市	運転免許取消者数	—	304
	うち 65 歳以上（割合）	—	215（70.7%）

資料：三重県運転免許センター

(3) 交通事故

伊賀市の人身事故件数は、年間 110～150 件程度で推移しています。また、死傷者数については、年間およそ 140～150 人の間で増減を繰り返しています。



資料：三重の交通統計

図 3-37　交通事故発生状況の推移

3-10　市内の移動実態

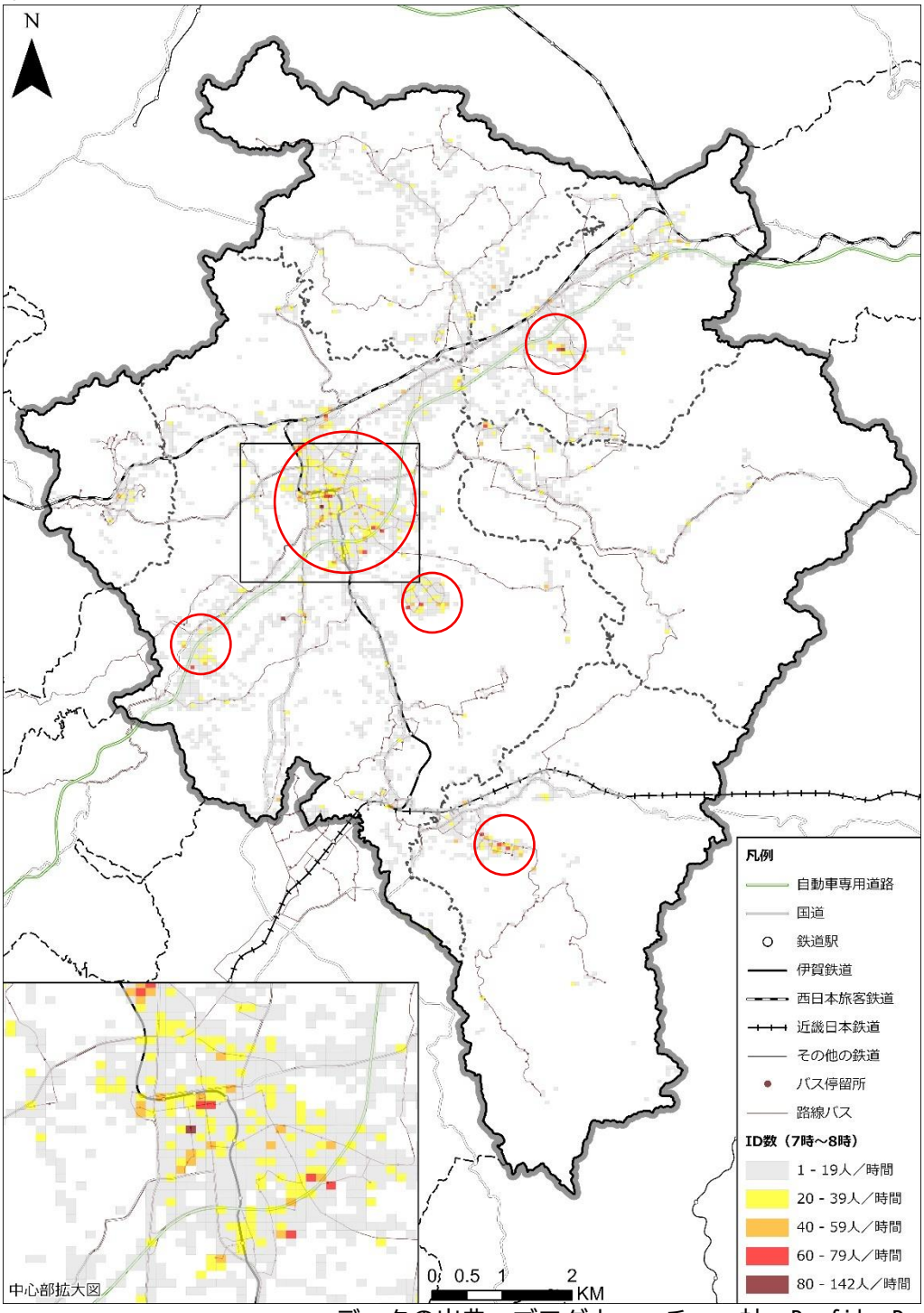
(1) 目的地の分布

1) 分析内容

伊賀市内の移動の実態を把握するために、人流データを活用した分析を行いました。

2) 平日朝

平日の朝（７～８時台）としては、上野地域の中心市街地の他、団地（ゆめが丘団地、桐ヶ丘団地など）や従業員数 300 人以上のエリア（上野地域南西部、北東部、いがまち地域）に滞在が集中しています。

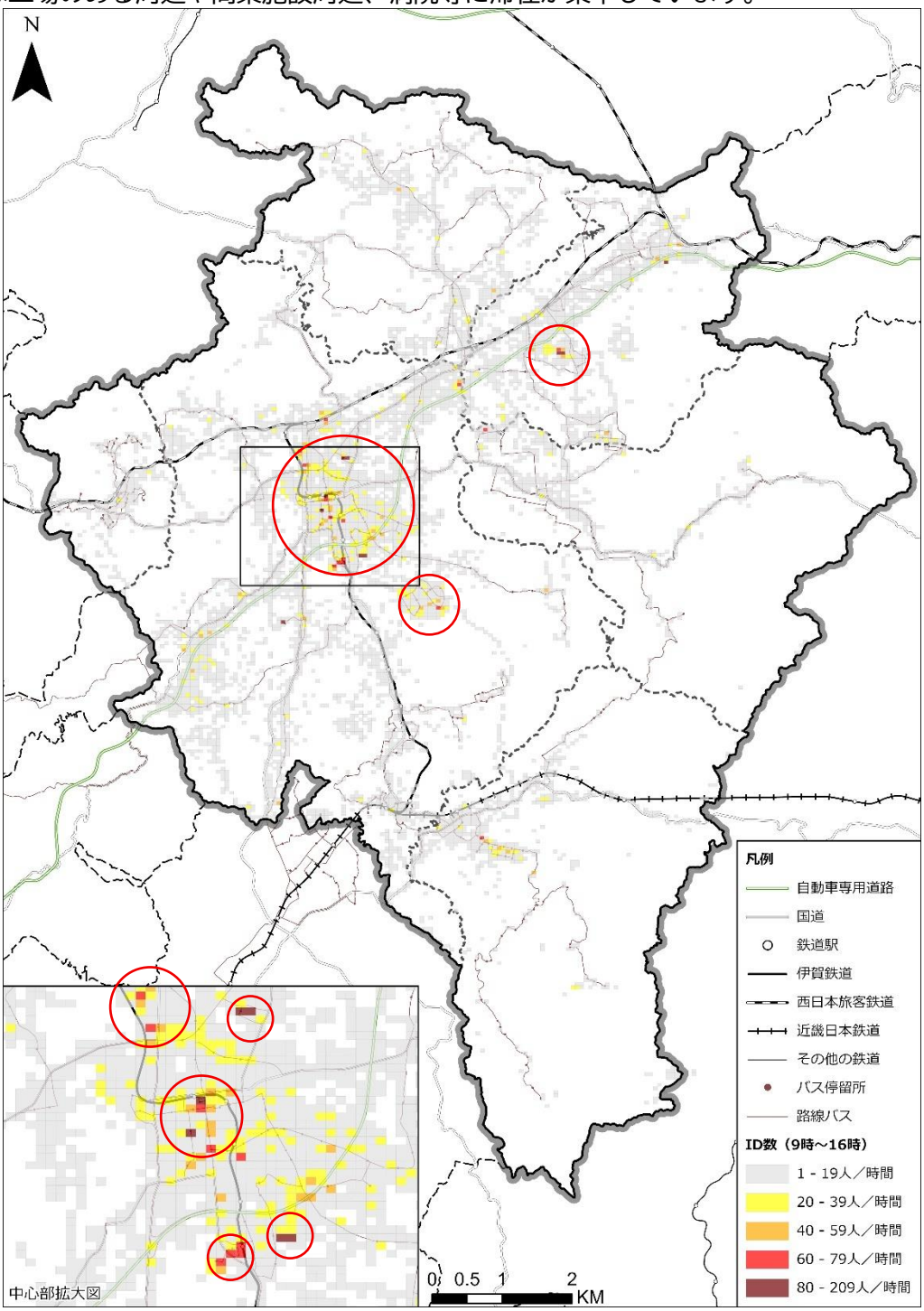


データの出典：ブログウォッチャー社　Profile Passport DMP

図 3-38　目的地の分布状況（平日朝）

3） 平日昼間

昼間（９時～16 時台）としては、上野地域の中心市街地や、ゆめが丘団地に集中します。また、大規模な工場のある周辺や商業施設周辺、病院等に滞在が集中しています。

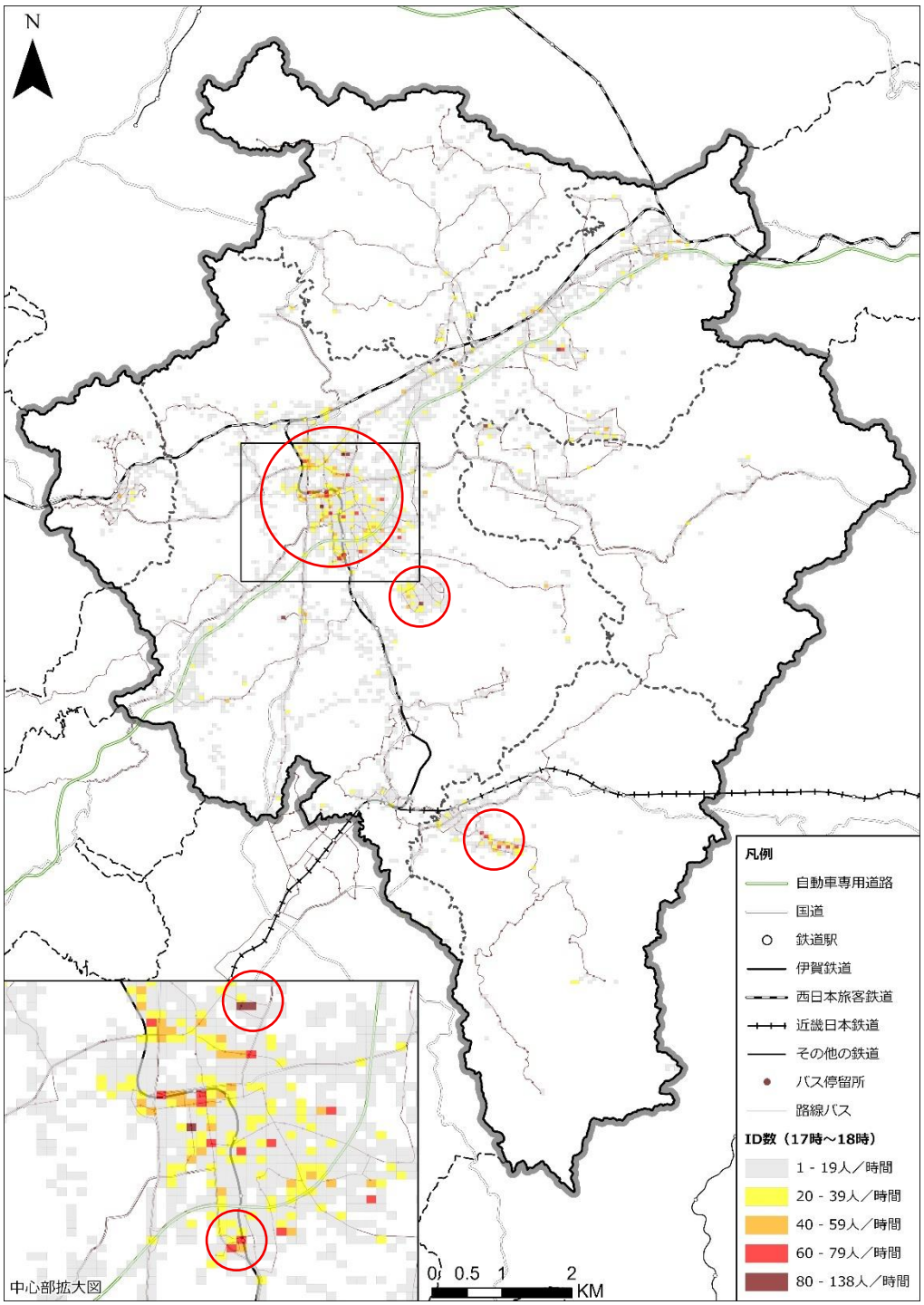


データの出典：ブログウォッチャー社　Profile Passport DMP

図 3-39　目的地の分布状況（平日昼間）

4） 平日夕方

平日の夕方（17～18 時台）としては、上野地域の中心市街地の他、団地（ゆめが丘団地、桐ヶ丘団地など）や大規模商業施設等の周辺に滞在が集中しています。

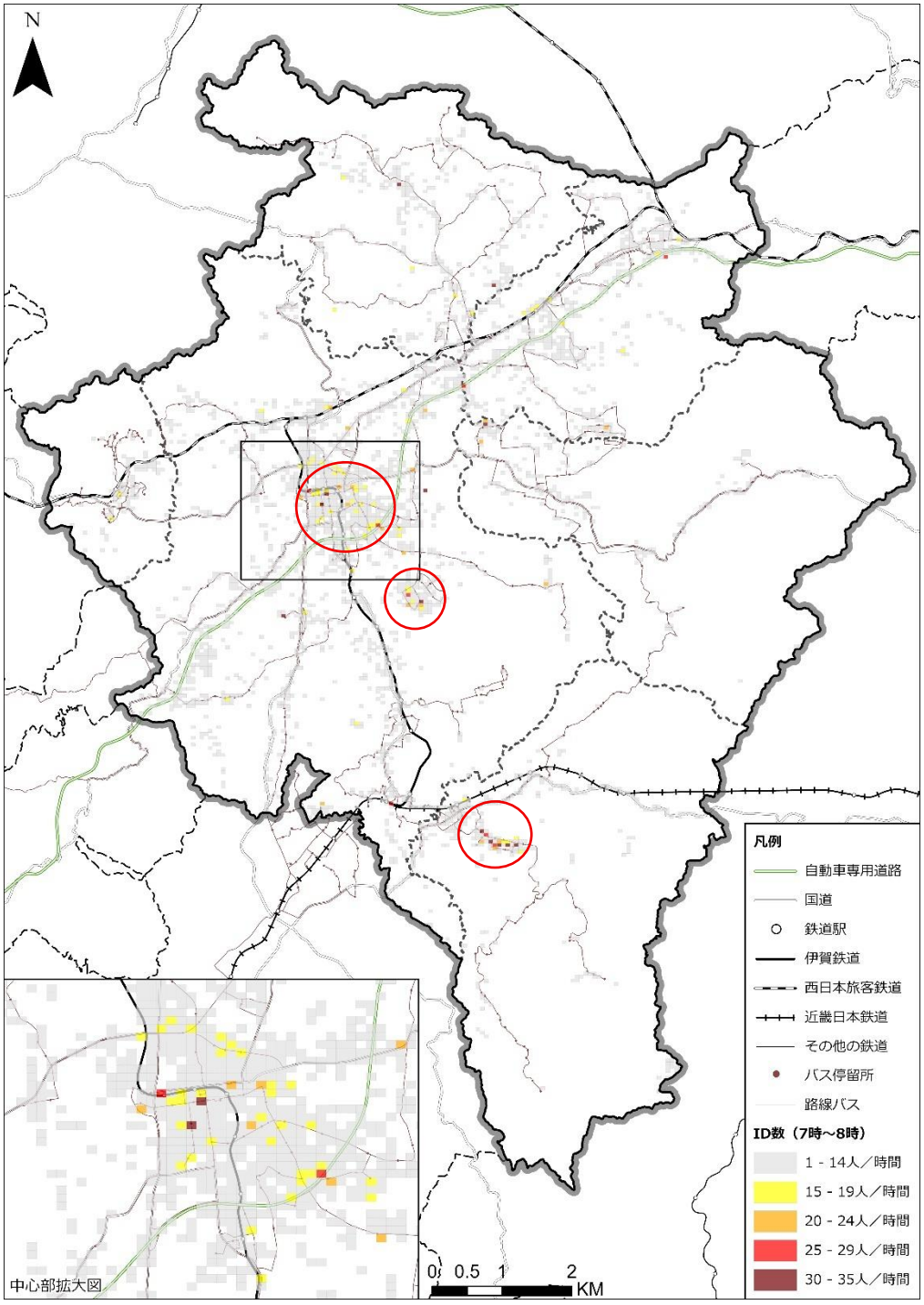


データの出典：ブログウォッチャー社　Profile Passport DMP

図 3-40　目的地の分布状況（平日夕方）

5） 休日朝

休日の朝（７～８時台）としては、上野地域の中心市街地の他、団地（ゆめが丘団地、桐ヶ丘団地など）に滞在が集中しています。

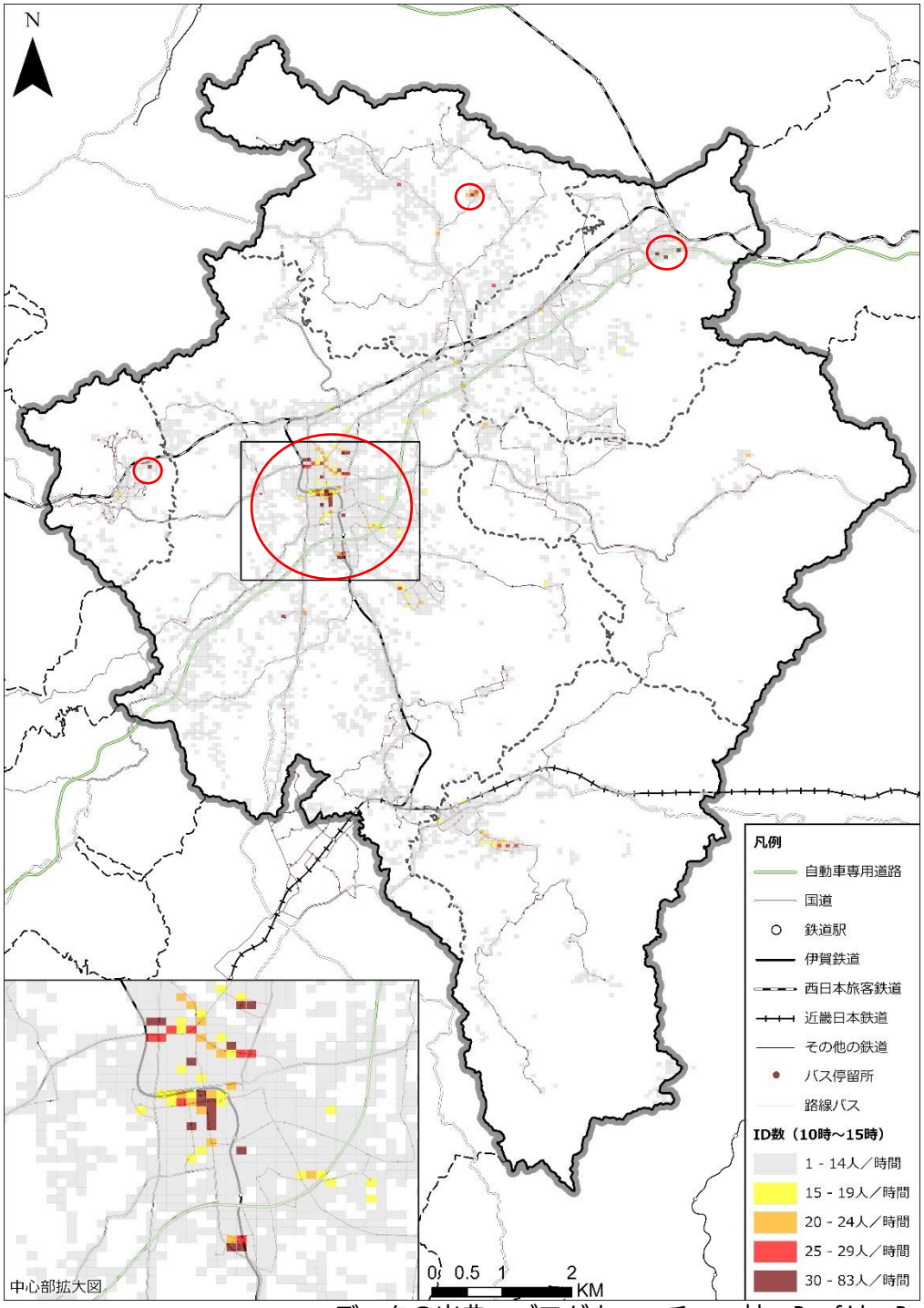


データの出典：ブログウォッチャー社　Profile Passport DMP

図 3-41　目的地の分布状況（休日朝）

6） 休日昼間

休日の昼間（10～15 時台）としては、上野地域の中心市街地の他、商業施設、観光施設周辺（道の駅いが、島ヤ原温泉やぶっちゃ、伊賀の里もくもく手づくりファームなど）

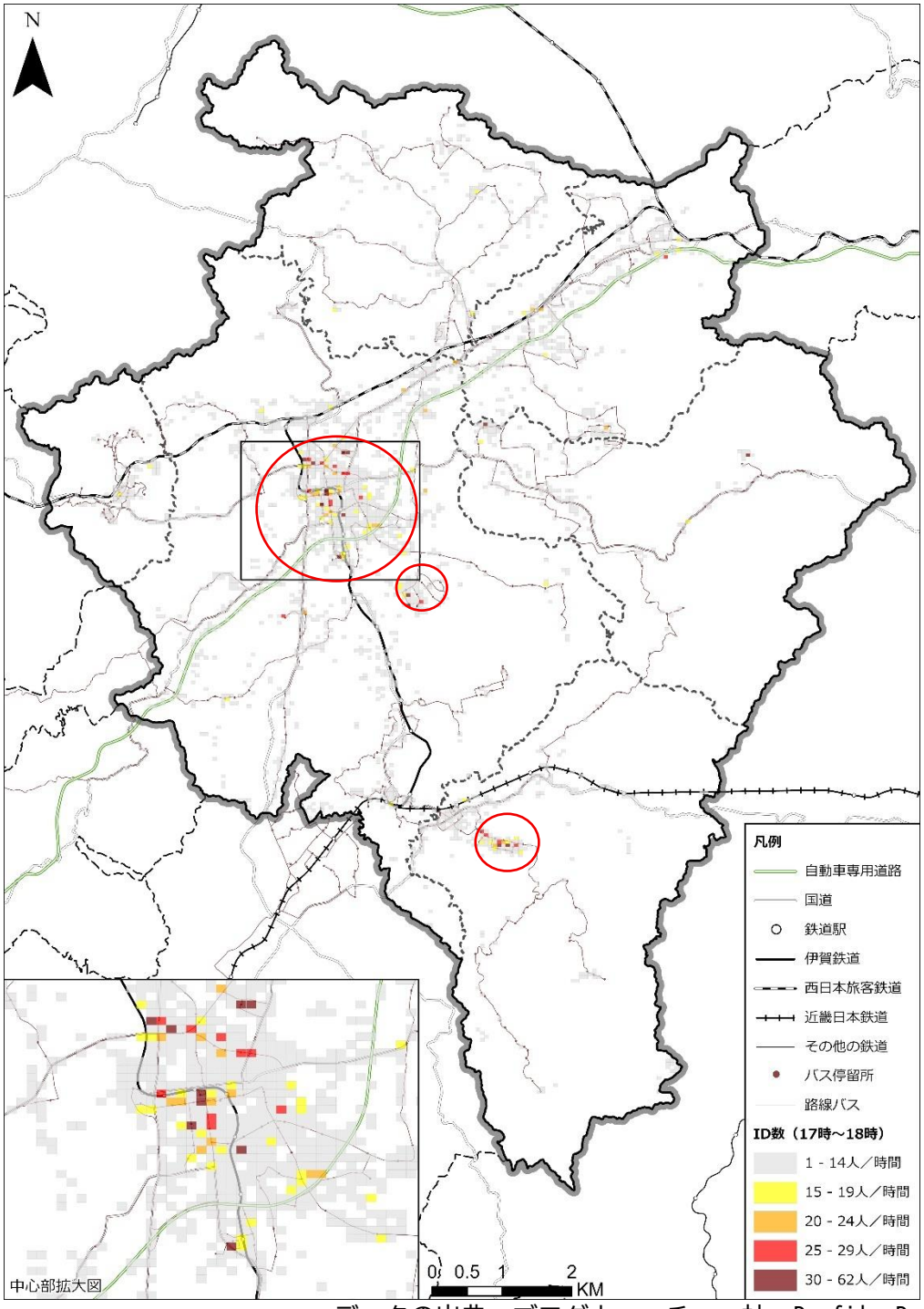


データの出典：ブログウォッチャー社　Profile Passport DMP

図 3-42　目的地の分布状況（休日昼間）

7） 休日夕方

休日の夕方（17～18 時台）としては、上野地域の中心市街地の他、団地（ゆめが丘団地、桐ヶ丘団地など）や大規模商業施設等の周辺に滞在が集中しています。



データの出典：ブログウォッチャー社　Profile Passport DMP

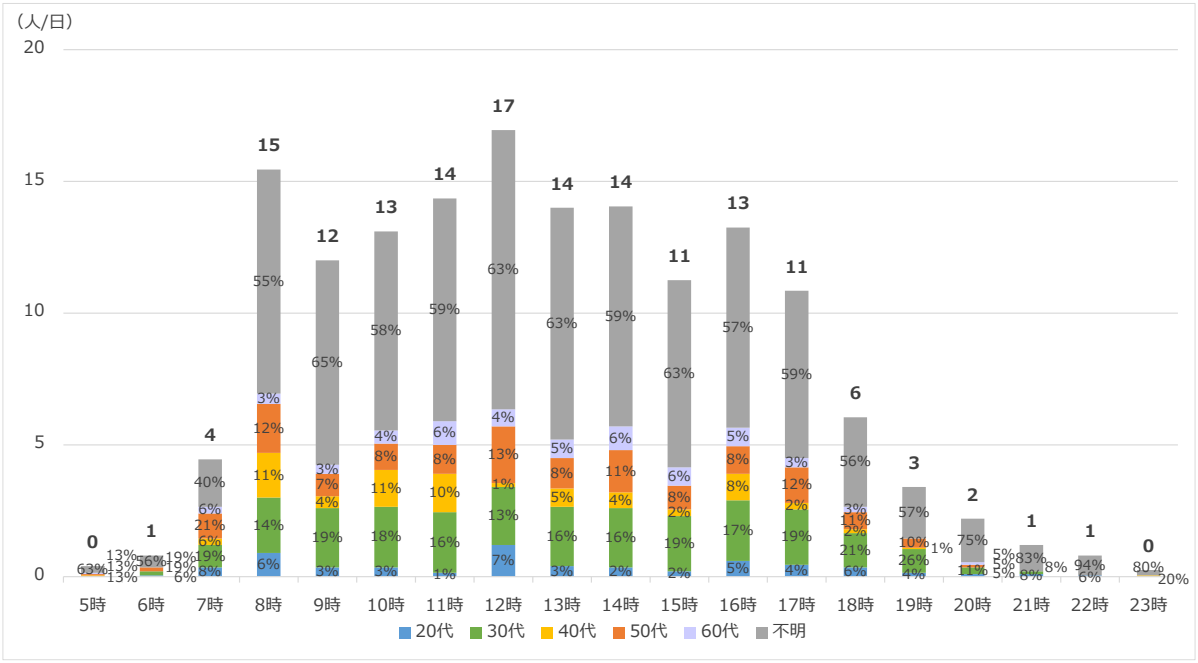
図 3-43　目的地の分布状況（休日夕方）

（2） 主な目的地の来訪時間帯

人流データを活用して各施設への来訪時間帯について、整理しました。

1） 伊賀市役所（平日）

伊賀市役所への来訪者は８時～17 時が多くなっております。

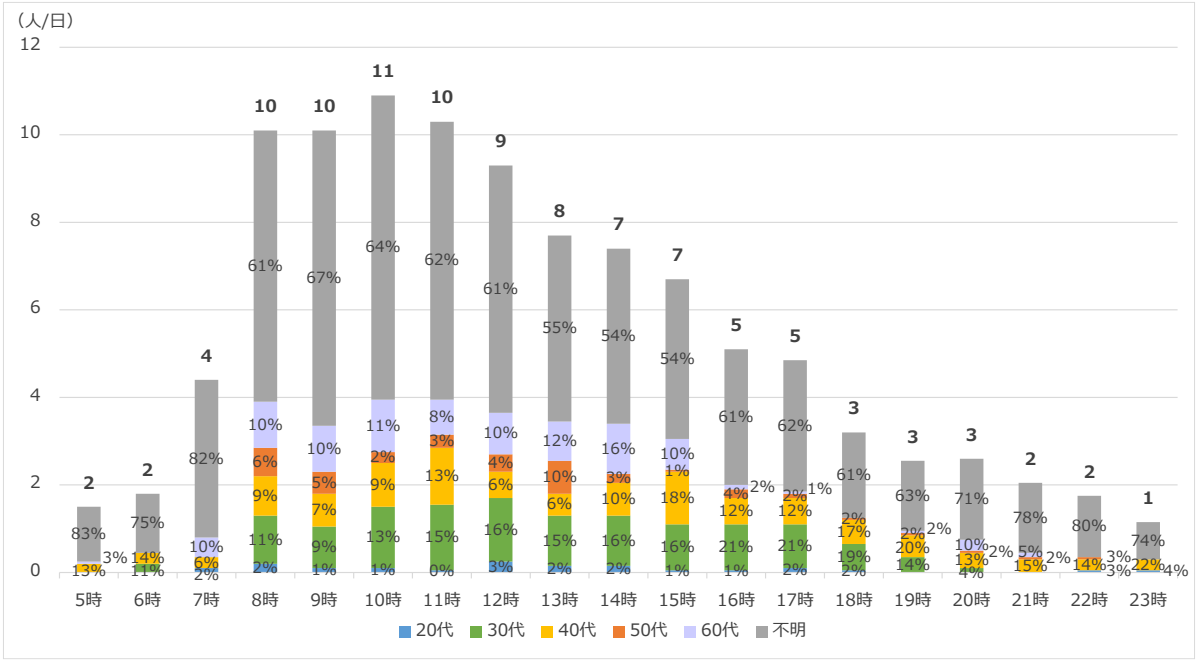


データの出典：ブログウォッチャー社　Profile Passport DMP

図 3-44　主な目的地の来訪時間（伊賀市役所（平日））

2） 伊賀市立上野総合市民病院（平日）

伊賀市立上野総合市民病院への来訪者は８時から 12 時が多くなっています。

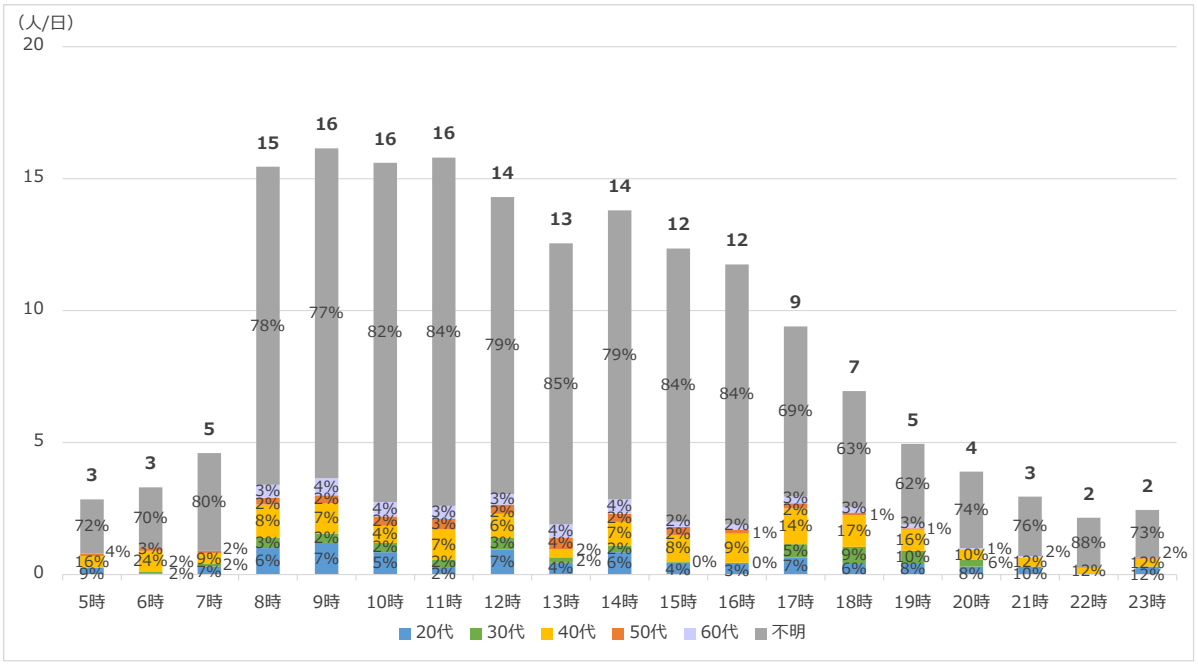


データの出典：ブログウォッチャー社　Profile Passport DMP

図 3-45　主な目的地の来訪時間（市民病院（平日））

3） 岡波総合病院（平日）

岡波総合病院への来訪者は８時から 12 時が多くなっています。

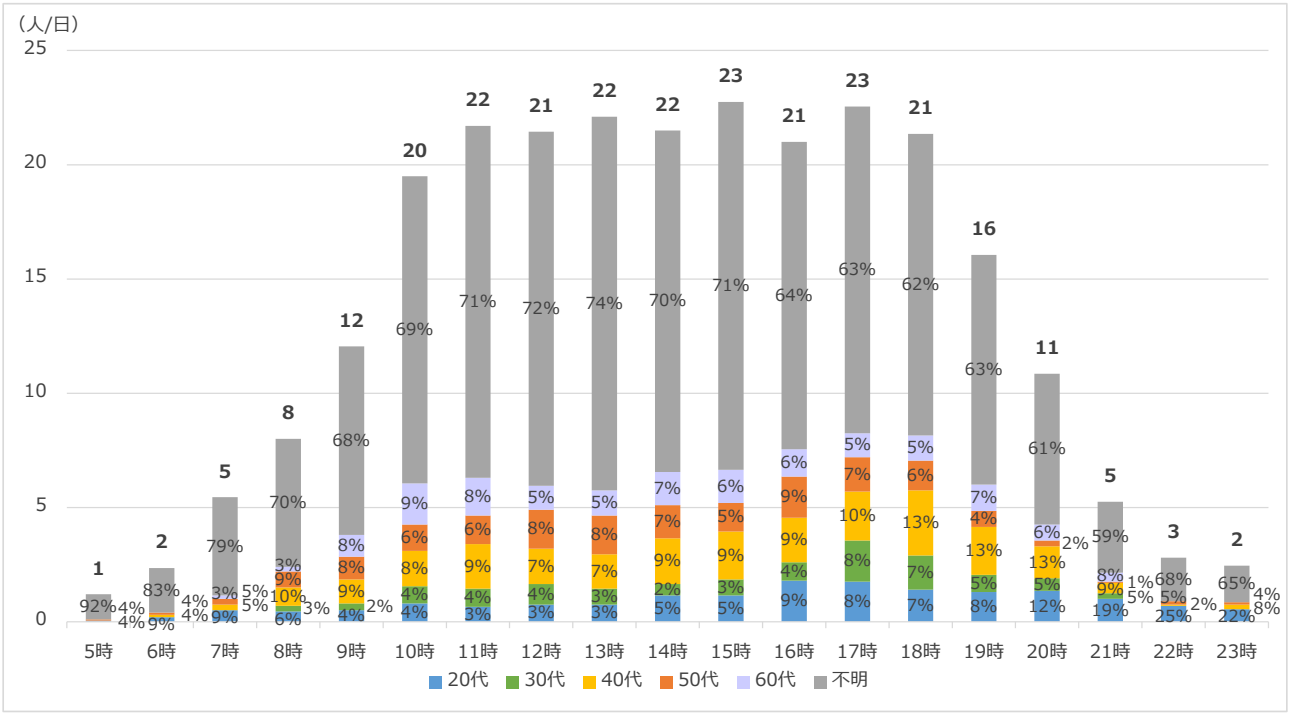


データの出典：ブログウォッチャー社　Profile Passport DMP

図 3-46　主な目的地の来訪時間（岡波総合病院（平日））

4） アピタ伊賀上野店

アピタ伊賀上野店への来訪者は９時から 20 時が多くなっています。

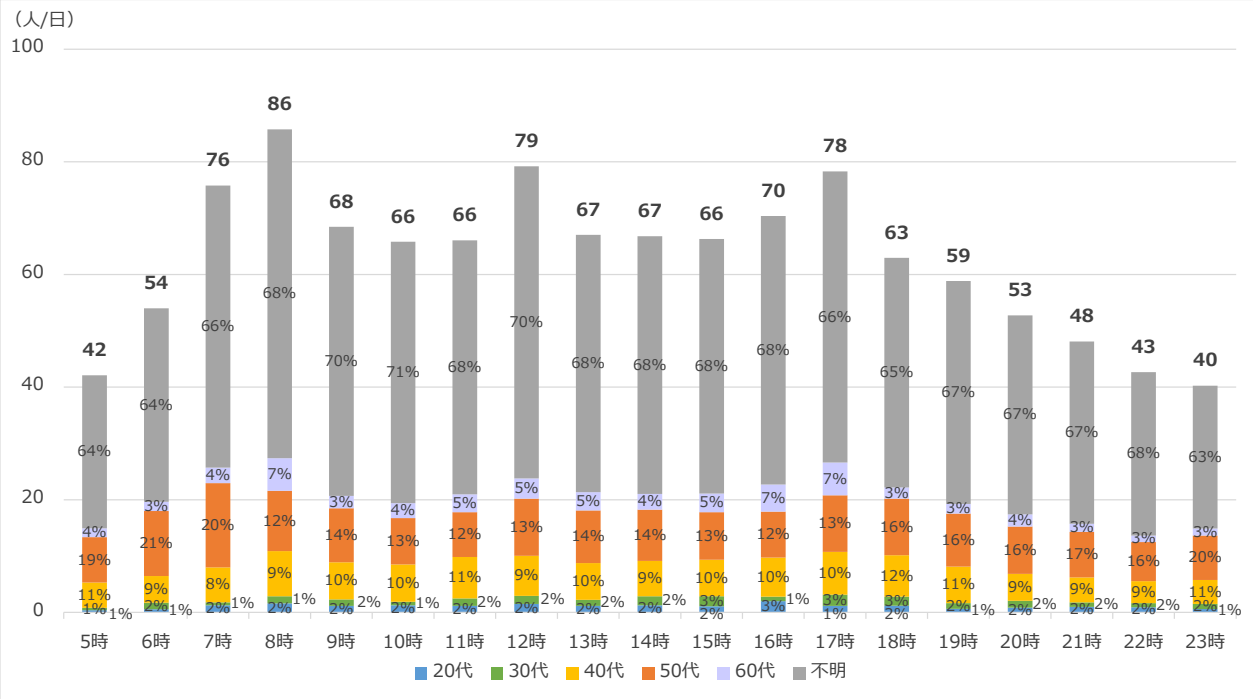


データの出典：ブログウォッチャー社　Profile Passport DMP

図 3-47　主な目的地の来訪時間（アピタ伊賀上野店（平日））

5） ゆめが丘団地（平日）

ゆめが丘団地では８時、12 時、17 時に滞在者が多くなっています。

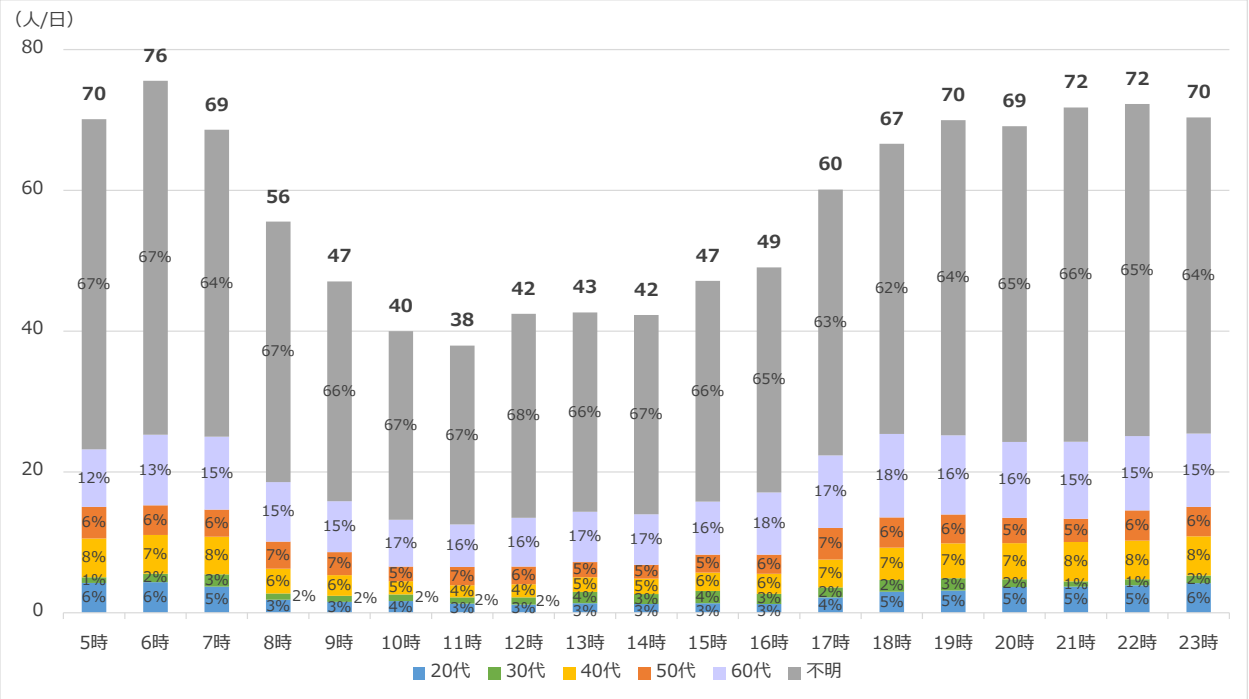


データの出典：ブログウォッチャー社　Profile Passport DMP

図 3-48　主な目的地の来訪時間（ゆめが丘団地（平日））

6） 桐ヶ丘団地（平日）

桐ヶ丘団地では６時台をピークとして、日中には滞在者が減少し、17 時以降に増加しています。

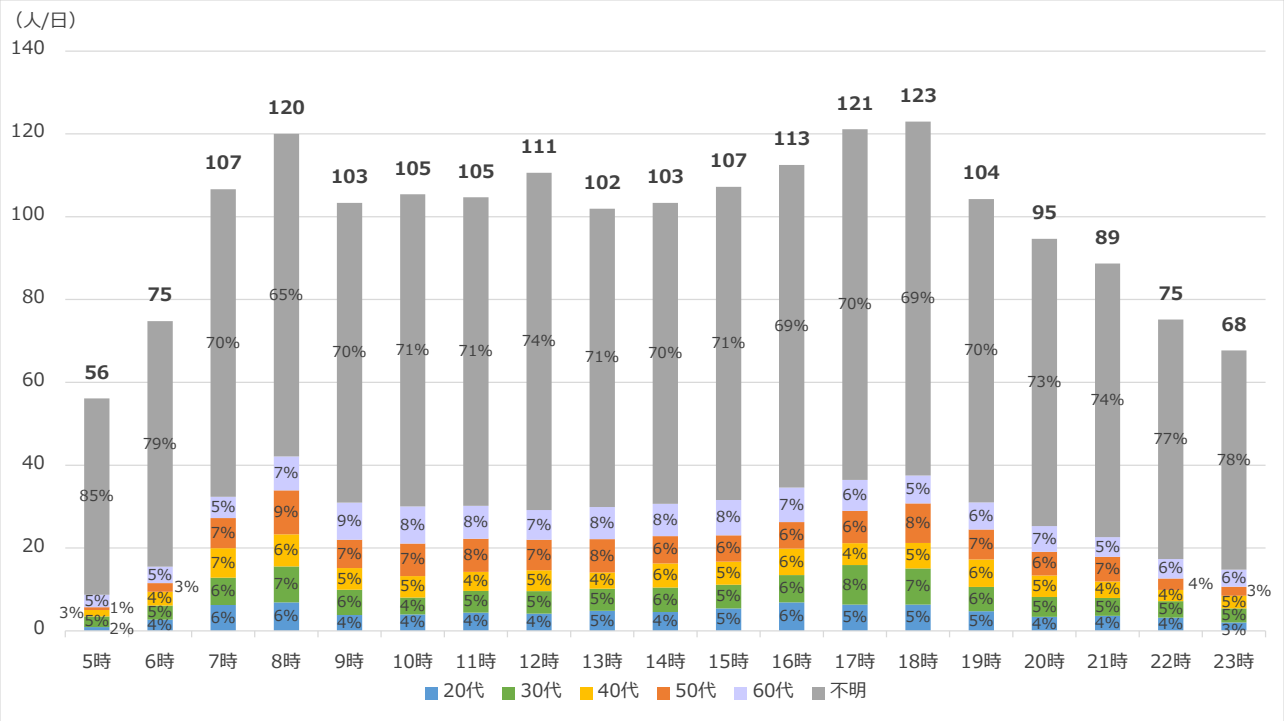


データの出典：ブログウォッチャー社　Profile Passport DMP

図 3-49　主な目的地の来訪時間（桐ヶ丘団地（平日））

7） 中心市街地（平日）

中心市街地では、午前中は８時をピークとして、やや減少しています。午後は 18 時をピークとして、減少しています。

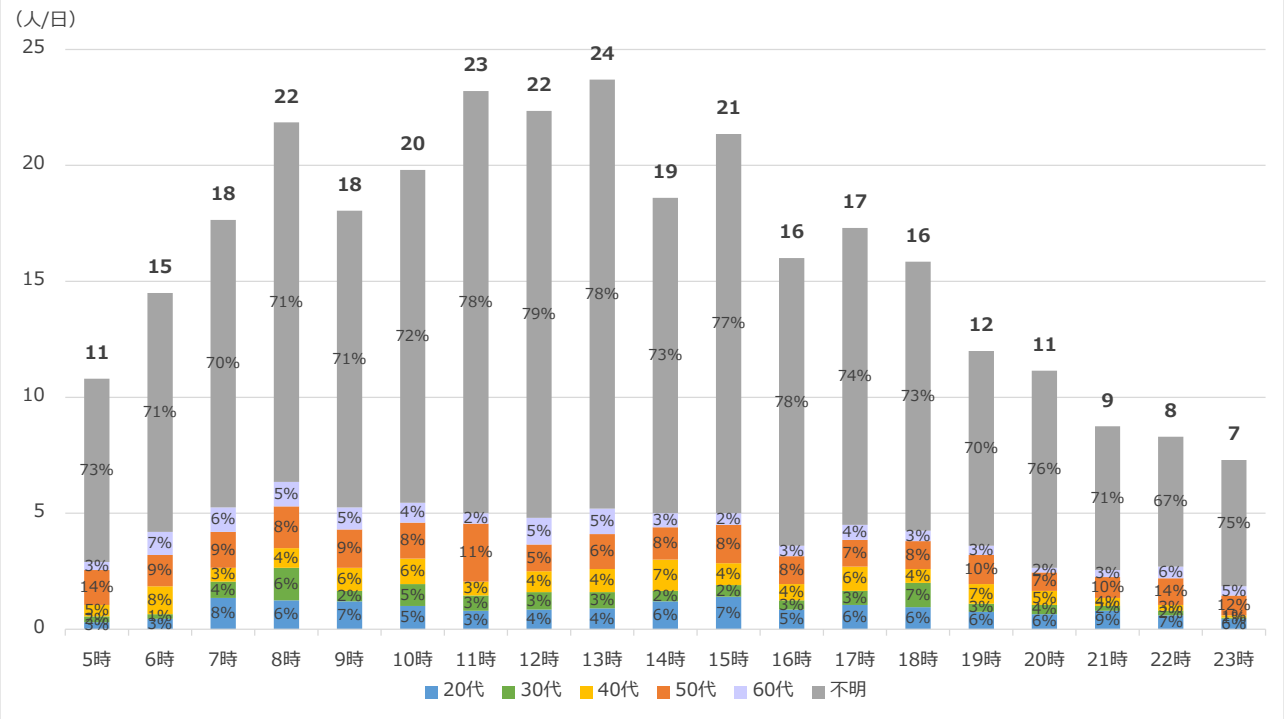


データの出典：ブログウォッチャー社　Profile Passport DMP

図 3-50　主な目的地の来訪時間（中心市街地（平日））

8） 道の駅いが（平日）

道の駅いがでは、午前中から増加傾向を示し、13 時をピークとして、午後は減少しています。

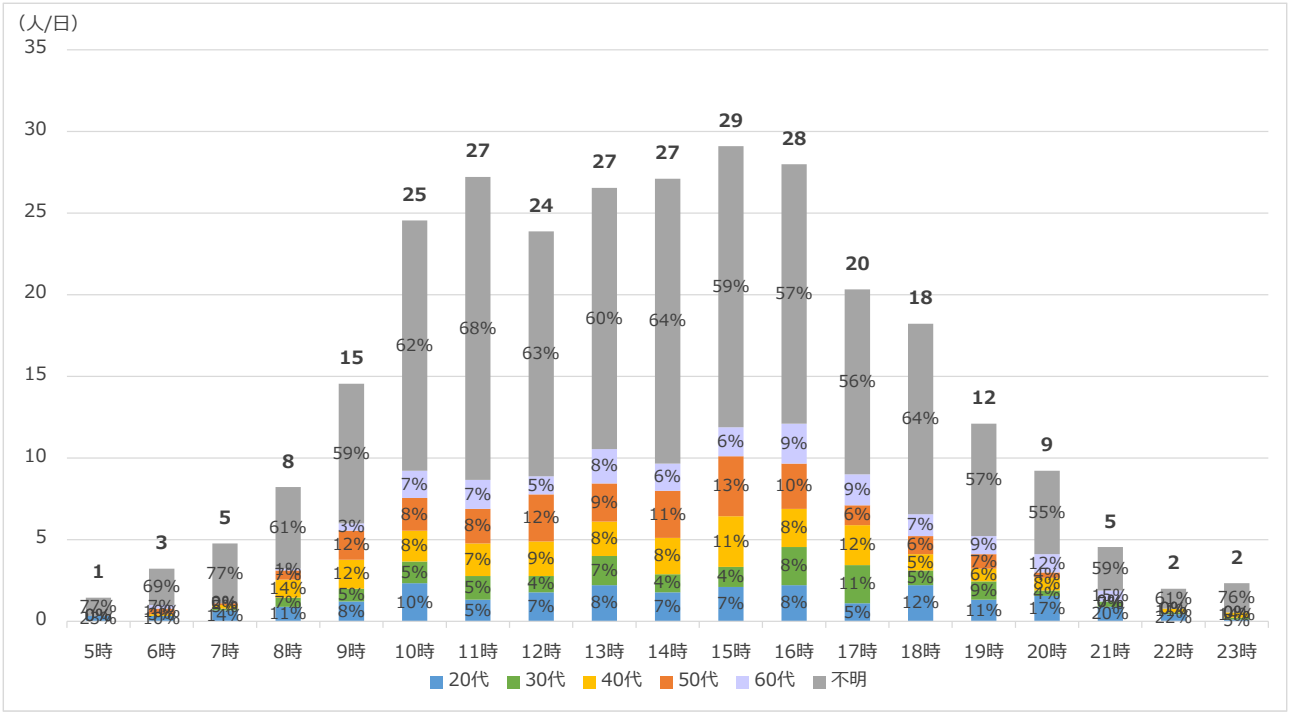


データの出典：ブログウォッチャー社　Profile Passport DMP

図 3-51　主な目的地の来訪時間（道の駅いが（平日））

9） アピタ伊賀上野店（休日）

アピタ伊賀上野店の滞在者は９時から 20 時が多くなっています。
平日と比較して、滞在者が多くなっています。

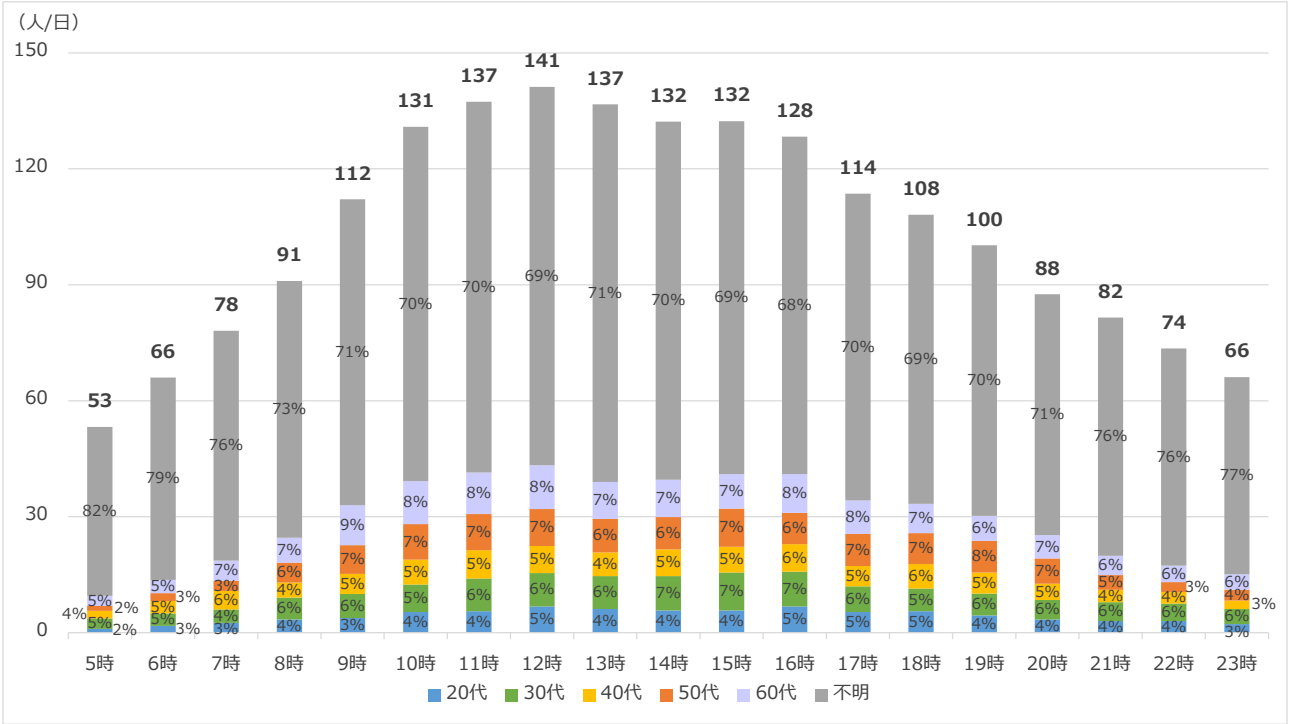


データの出典：ブログウォッチャー社　Profile Passport DMP

図 3-52　主な目的地の来訪時間（アピタ伊賀上野店（休日））

10） 中心市街地（休日）

中心市街地の滞在者は、午前中から増加傾向を示し、12 時をピークに午後は減少しています。

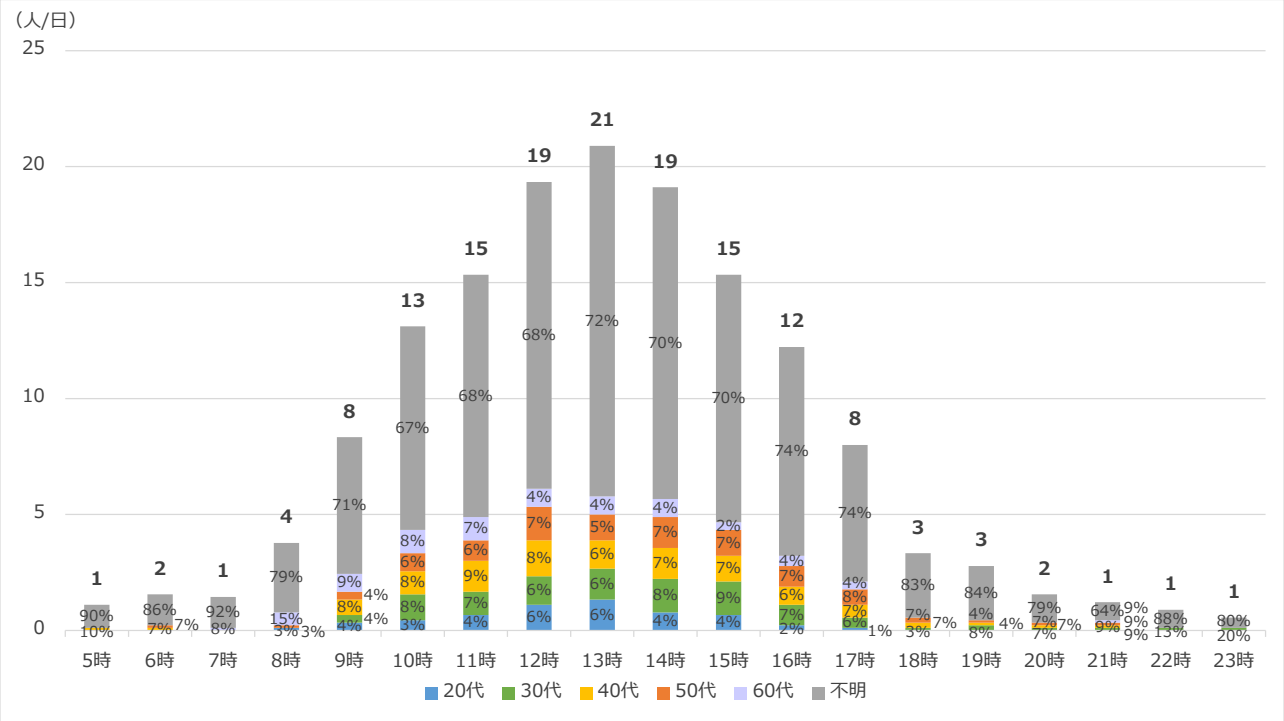


データの出典：ブログウォッチャー社　Profile Passport DMP

図 3-53　主な目的地の来訪時間（中心市街地（休日））

11） もくもくファーム（休日）

もくもくファームの滞在者は、午前中から増加傾向を示し、13 時をピークに午後は減少しています。

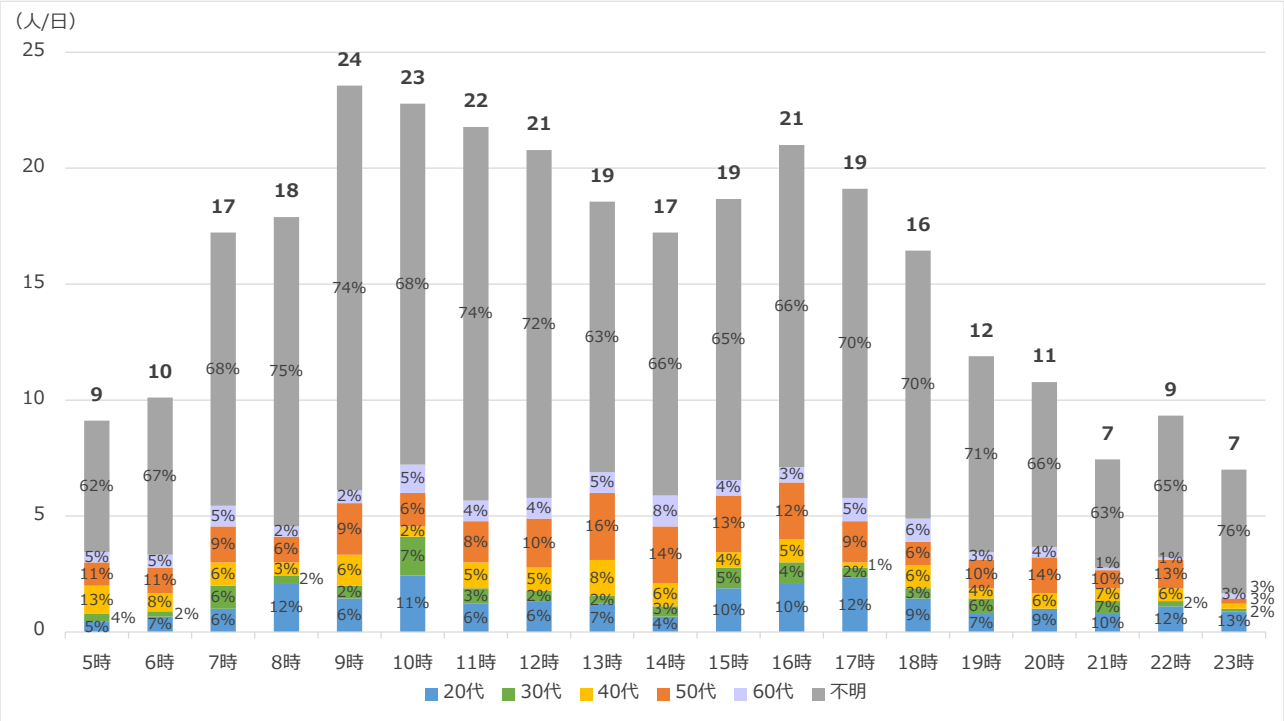


データの出典：ブログウォッチャー社　Profile Passport DMP

図 3-54　主な目的地の来訪時間（もくもくファーム（休日））

12） 道の駅いが（休日）

道の駅いがでは、10 時と 17 時に増加し、日中は減少しています。



データの出典：ブログウォッチャー社　Profile Passport DMP

図 3-55　主な目的地の来訪時間（道の駅いが（休日））